

2.2. 子どもの生活状況

2.2.1 学習の状況

(1) ふだんの勉強の仕方

中学生票問2. あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。(MA)

ふだん学校の授業以外でどのように勉強をしているかについては、「自分で勉強する」が70.6%、「塾で勉強する」が41.3%、「家の人に教えてもらう」が22.7%、「友達と勉強する」が19.7%となっている。なお、「学校の授業以外で勉強はしない」の割合は9.0%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「塾で勉強する」が23.0%で、他の世帯と比べて低くなっている。他方で、「友達と勉強する」が25.4%、「学校の授業以外で勉強はしない」の割合は15.2%で、他の世帯と比べて高くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」の場合には、「自分で勉強する」が63.7%、「塾で勉強する」が24.9%、「家の人に教えてもらう」が18.7%で、それぞれ「ふたり親世帯」と比べて低くなっている。他方で、「学校の授業以外で勉強はしない」の割合は17.9%で、「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。

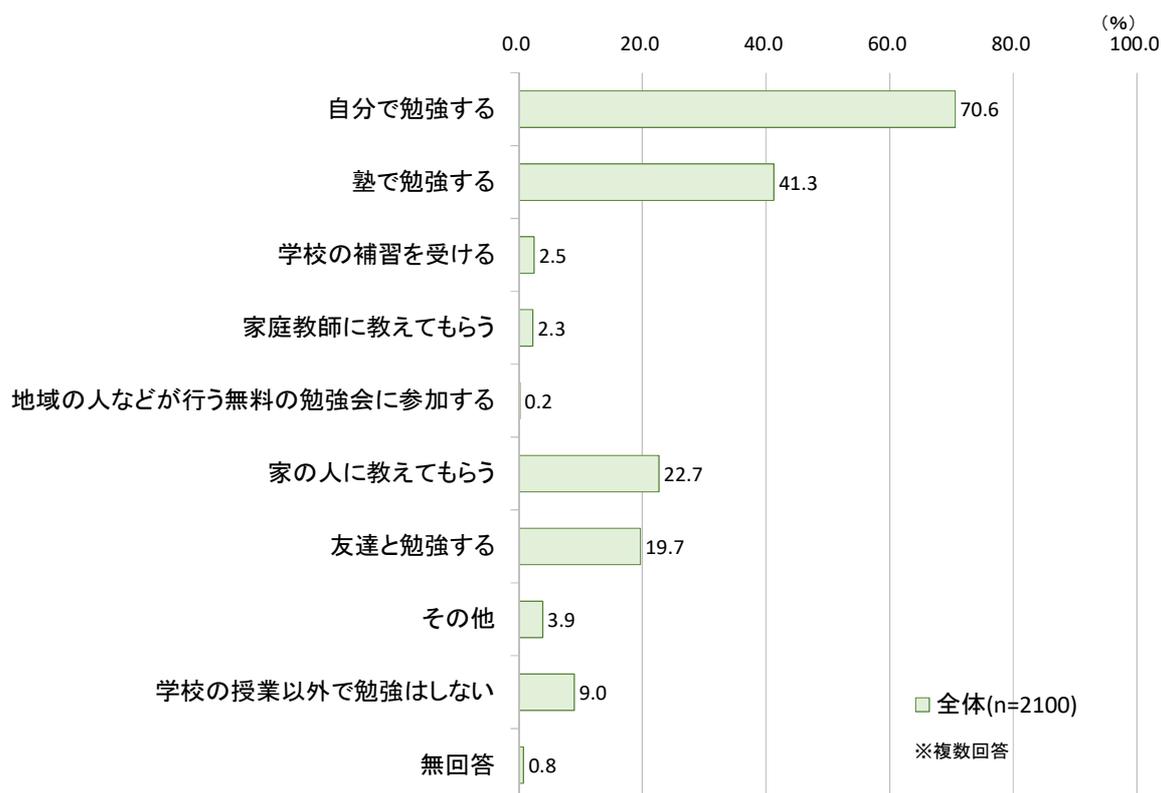


図 2-2-1-1 ふだんの勉強の仕方

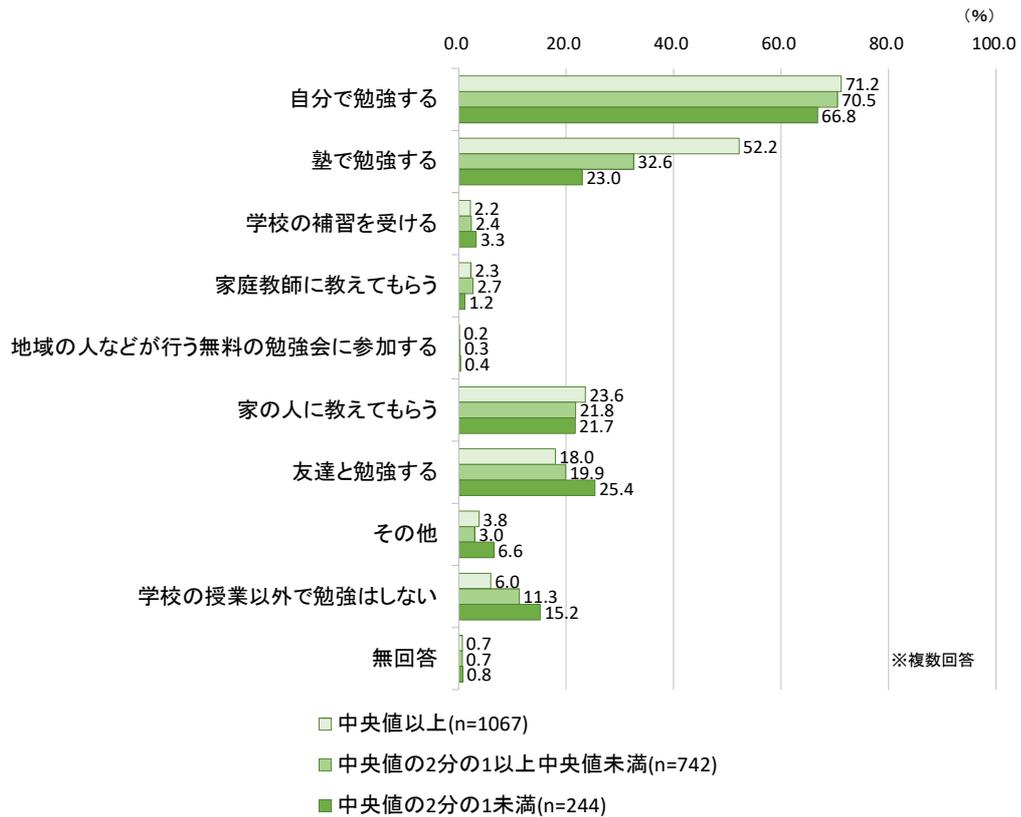


図 2-2-1-2 等価世帯収入の水準別、ふだんの勉強の仕方

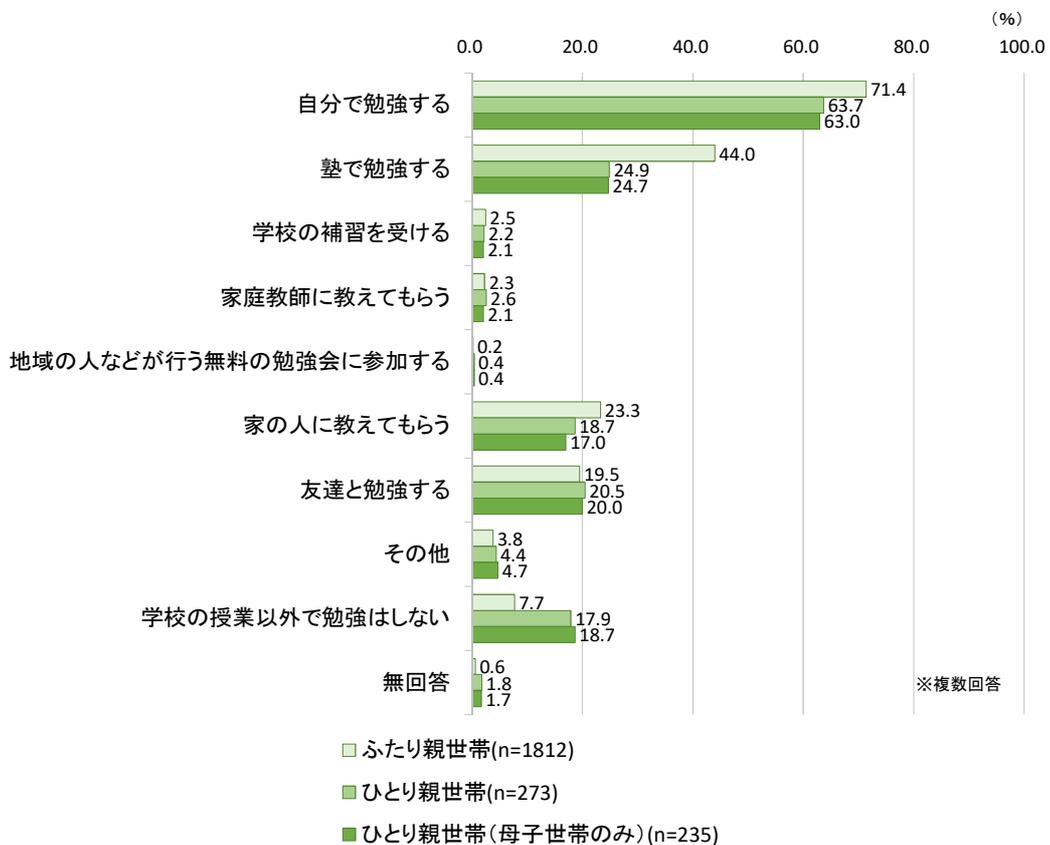


図 2-2-1-3 世帯の状況別、ふだんの勉強の仕方

(2) 1日あたりの勉強時間

中学生票問3. あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。(SA)

学校の授業以外での1日あたりの勉強時間について、「学校がある日（月～金曜日）」では、「30分以上、1時間より少ない」が27.0%で最も割合が高く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が25.0%となっている。また、「まったくしない」は10.9%となっている。

「学校がない日（土・日曜日・祝日）」では、「30分以上、1時間より少ない」が22.3%で最も割合が高く、次いで「30分より少ない」が21.0%となっている。「まったくしない」は18.7%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「まったくしない」の割合が、「学校がある日（月～金曜日）」では18.0%、「学校がない日（土・日曜日・祝日）」では25.0%となっており、それぞれそれ以外の世帯と比べて高くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「まったくしない」の割合が、「学校がある日（月～金曜日）」では17.9%、「学校がない日（土・日曜日・祝日）」では28.6%となっており、それぞれ「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。

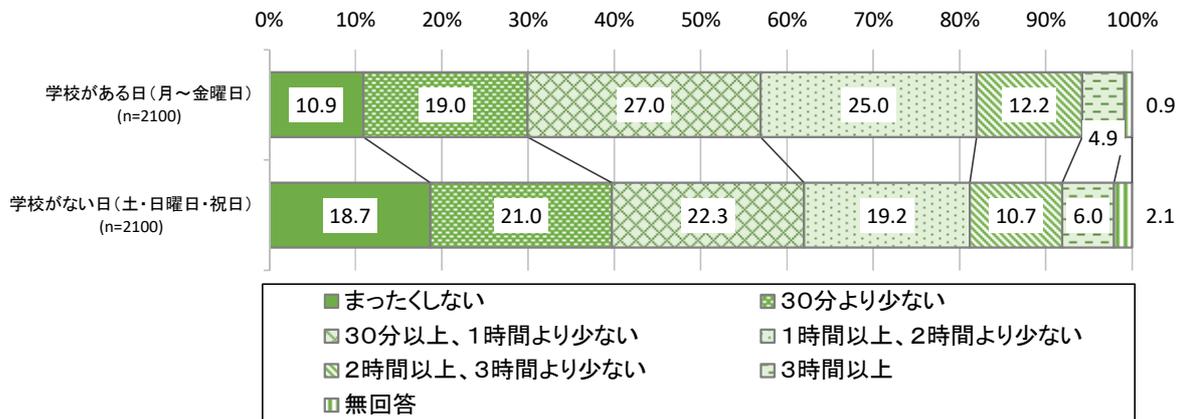


図 2-2-1-4 学校の授業以外の1日あたりの勉強時間

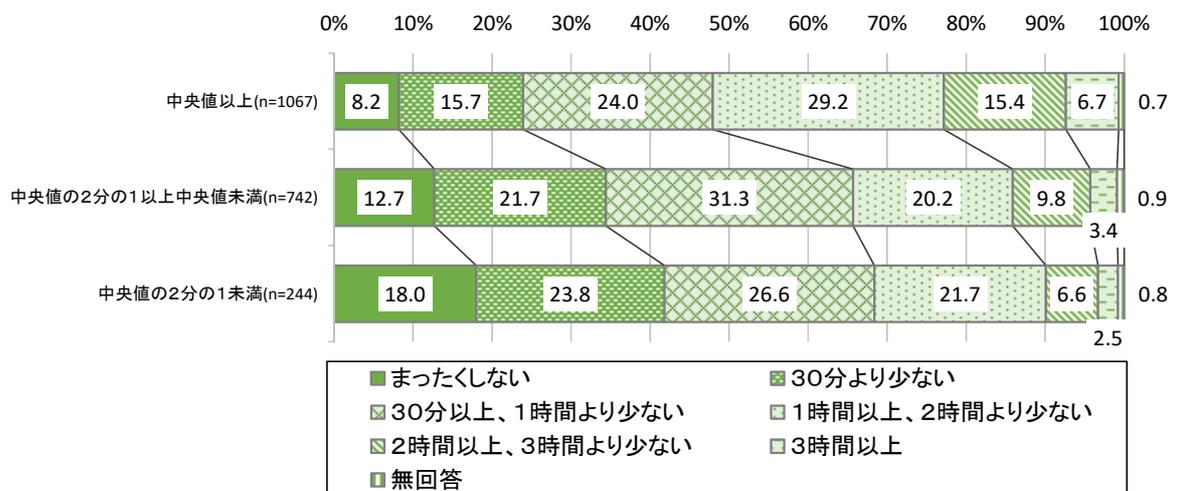


図 2-2-1-5 等価世帯収入の水準別、学校の授業以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

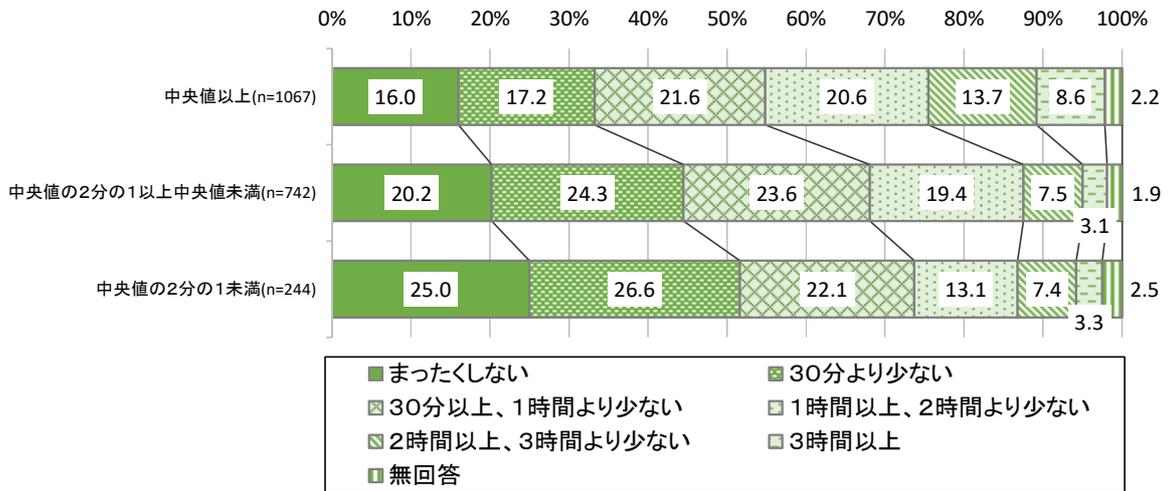


図 2-2-1-6 等価世帯収入の水準別、学校の授業以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

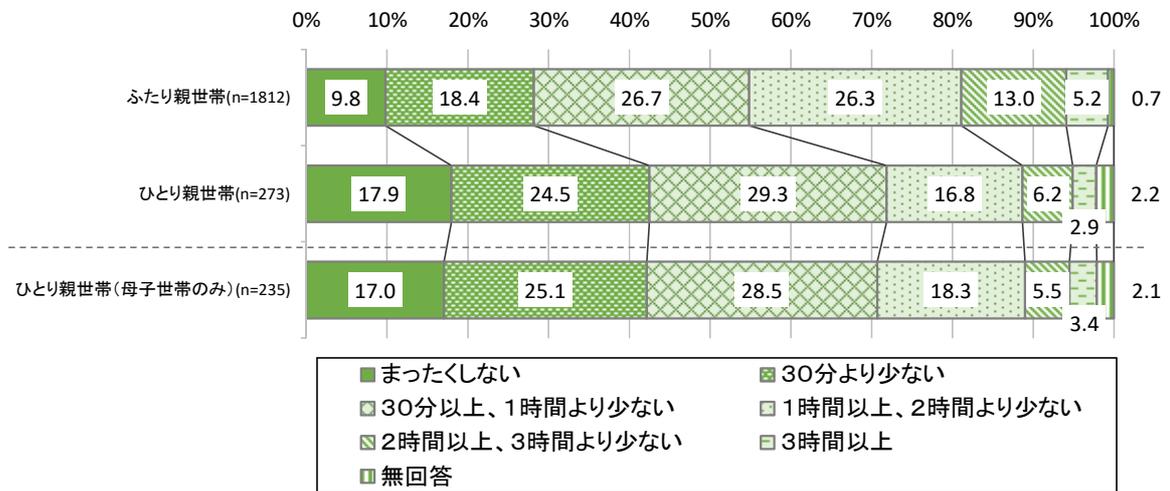


図 2-2-1-7 世帯の状況別、学校の授業以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

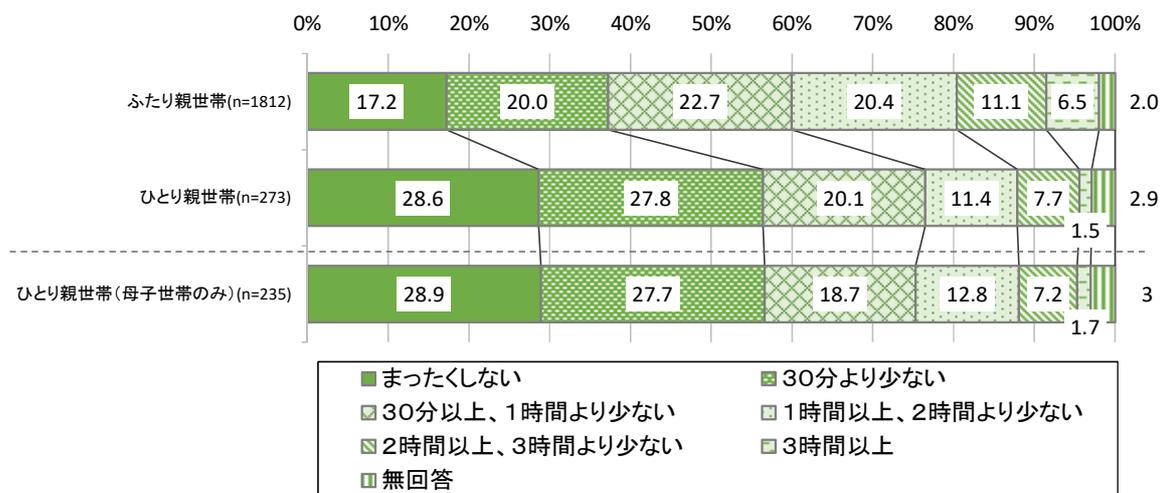


図 2-2-1-8 世帯の状況別、学校の授業以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

(3) クラスの中での成績

中学生票問4. あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(SA)

クラスの中での成績については、「上のほう」は16.1%、「やや上のほう」は22.6%、「まん中あたり」は25.5%、「やや下のほう」は13.5%、「下のほう」は17.1%、「わからない」は4.5%となっている。「やや下のほう」と「下のほう」を足し合わせた割合は30.6%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「やや下のほう」と「下のほう」を足し合わせた割合は、「中央値以上」の世帯では23.6%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では35.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では49.2%となっている。

世帯の状況別にみると、「やや下のほう」と「下のほう」を足し合わせた割合は、「ふたり親世帯」では27.9%、「ひとり親世帯」全体では47.6%、「母子世帯」のみでは47.2%となっている。

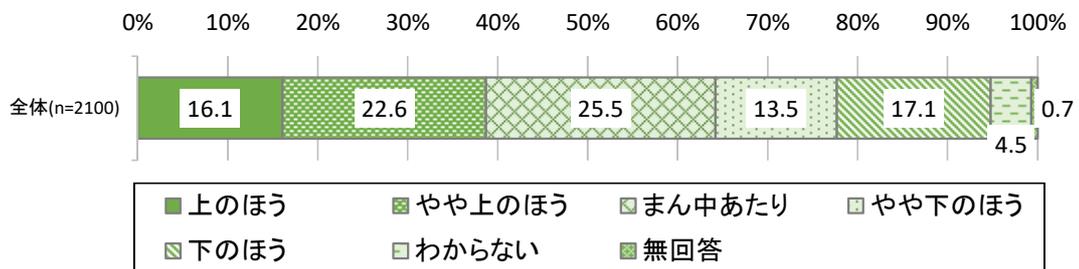


図 2-2-1-9 クラスの中での成績

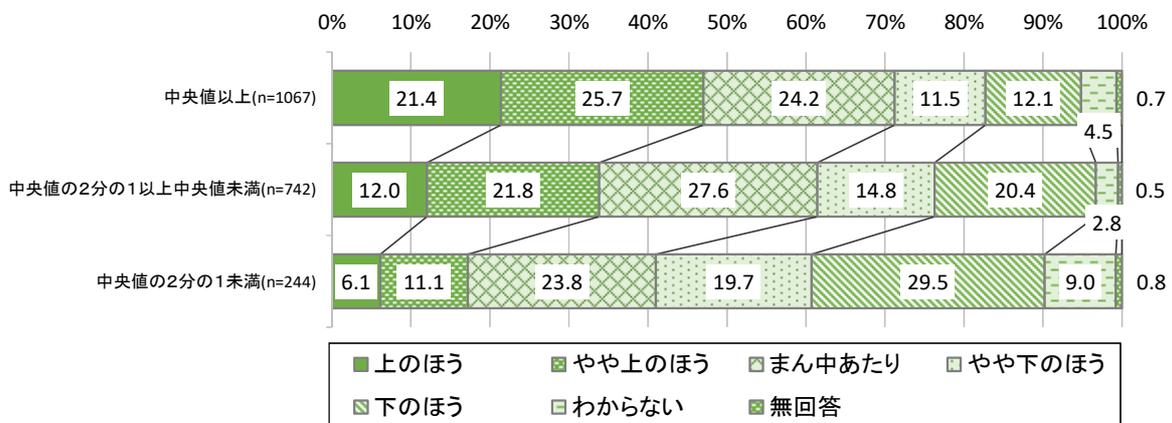


図 2-2-1-10 等価世帯収入の水準別、クラスの中での成績

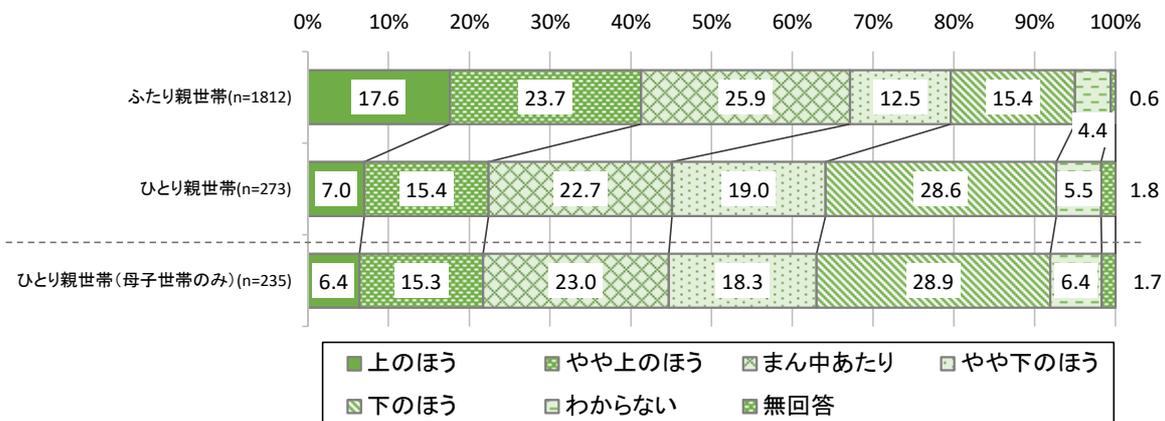


図 2-2-1-11 世帯の状況別、クラスの中での成績

(4) 授業の理解状況

中学生票問5. あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(SA)

学校の授業の理解状況については、「いつもわかる」が9.6%、「だいたいわかる」が35.1%、「教科によってはわからないことがある」が41.2%、「わからないことが多い」が9.6%、「ほとんどわからない」が3.7%となっている。「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」を合わせた割合は13.3%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「ほとんどわからない」と「わからないことが多い」を合わせた割合は、「中央値以上」の世帯では8.2%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では15.5%、「中央値の2分の1未満」の世帯では28.7%となっている。

世帯の状況別にみると、「ほとんどわからない」と「わからないことが多い」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では10.8%、「ひとり親世帯」全体では29.7%、「母子世帯」のみでは29.8%となっている。

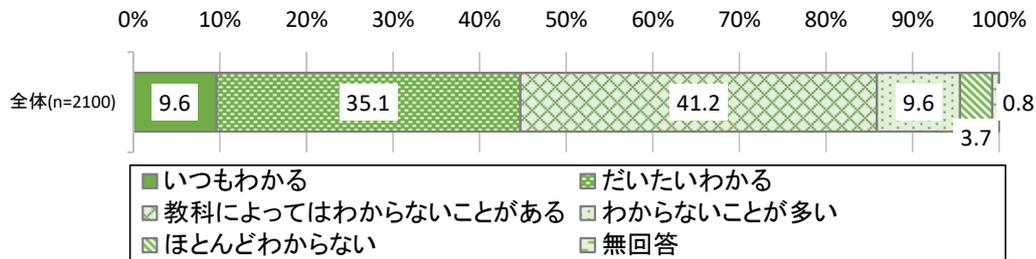


図 2-2-1-12 授業の理解状況

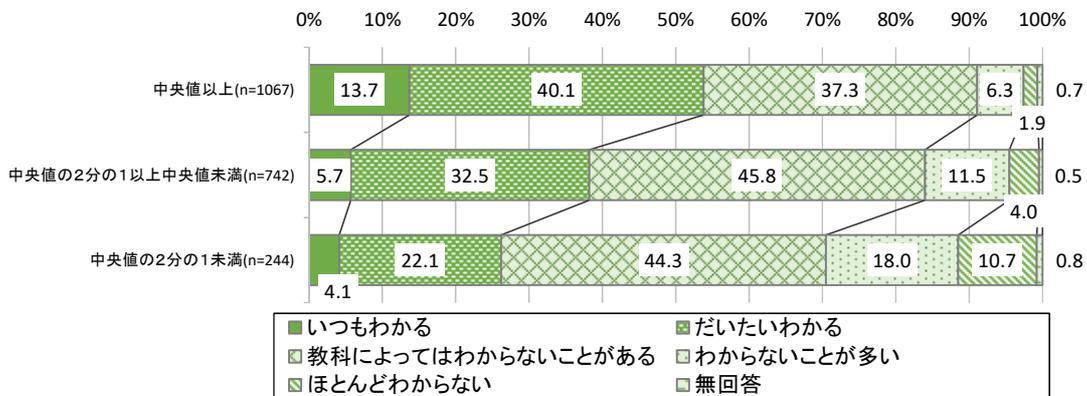


図 2-2-1-13 等価世帯収入の水準別、授業の理解状況

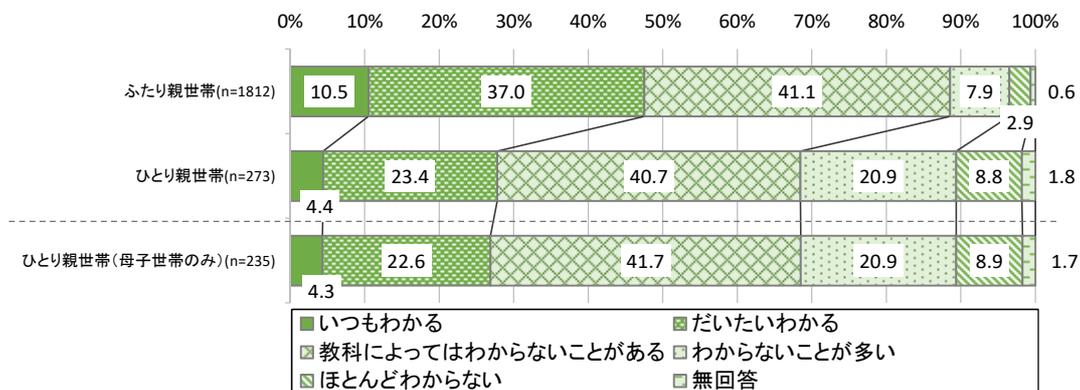


図 2-2-1-14 世帯の状況別、授業の理解状況

(5) 授業がわからなくなった時期

【問5で3～5と答えた方に】

中学生票問6. いつごろから、授業がわからないことがありますようになりましたか。(SA)

授業がわからなくなった時期については、「小学1・2年生のころ」が3.2%、「小学3・4年生のころ」が8.1%、「小学5・6年生のころ」が19.2%、「中学1年生のころ」が48.3%、「中学2年生になってから」が20.5%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、授業がわからなくなった時期について「中学2年生になってから」の割合が14.0%で他の世帯と比べて低く、「中学1年生のころ」、また、それよりも早い時期であったとの回答割合が高くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「中学2年生になってから」の割合が14.6%で「ふたり親世帯」と比べて低くなっている。

また、授業がわからなくなった時期について授業の理解状況別にみると、授業の理解状況の回答がいずれの場合も、授業がわからなくなった時期の回答は「中学1年生のころ」の割合が最も高いが、「わからないことが多い」や「ほとんどわからない」と回答した場合には、「小学5・6年生のころ」の回答割合が約3割、さらにそれよりも早い時期であるとの回答が約2割から3割となっており、早期からわからなくなったと回答する割合が高くなっている。

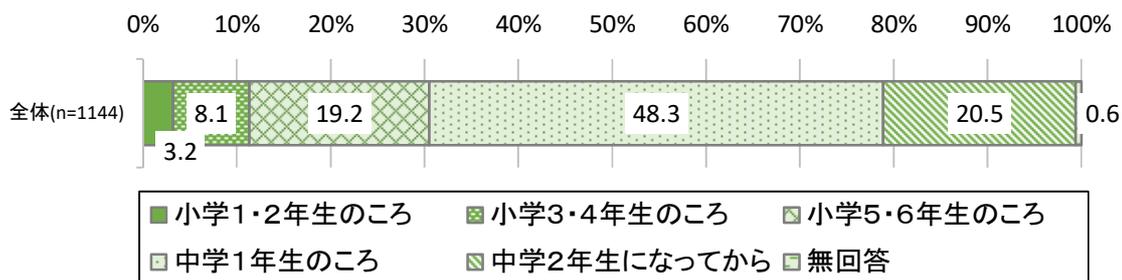


図 2-2-1-15 授業がわからなくなった時期

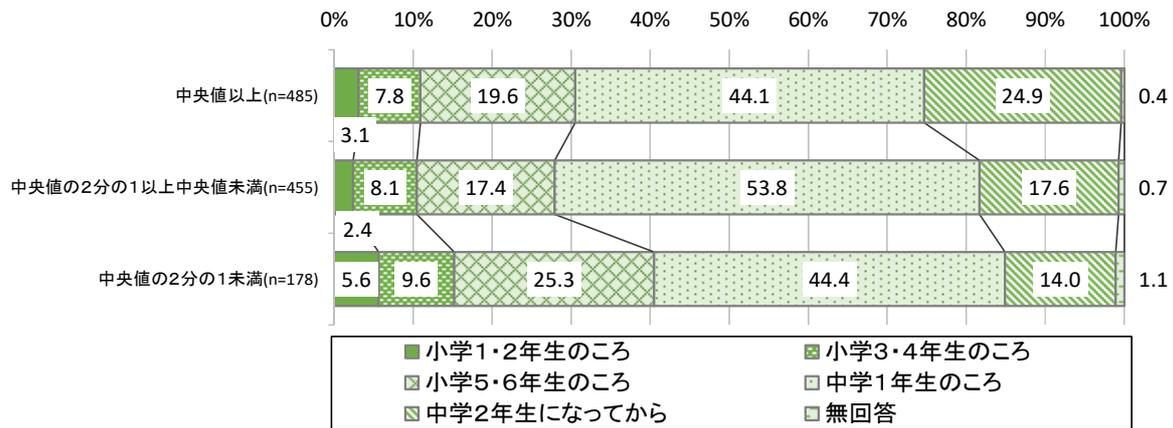


図 2-2-1-16 等価世帯収入の水準別、授業がわからなくなった時期

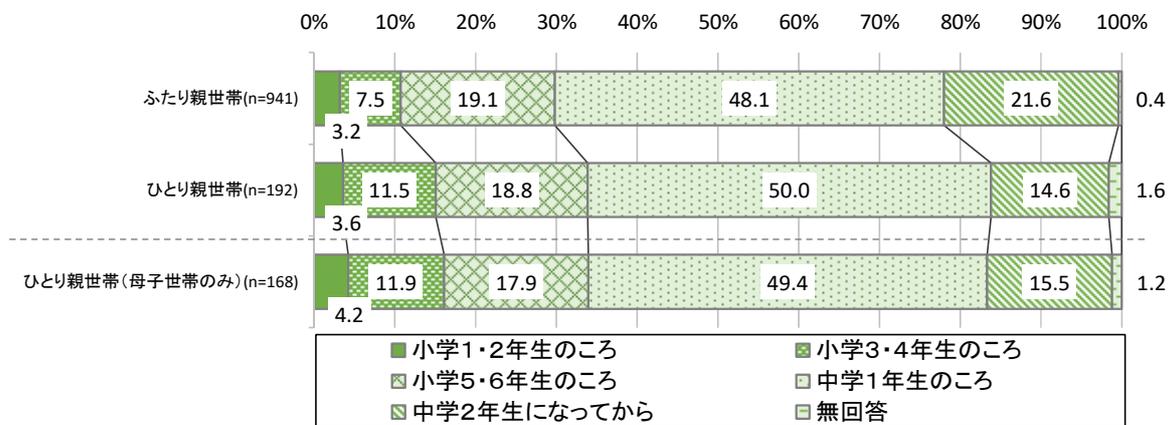


図 2-2-1-17 世帯の状況別、授業がわからなくなった時期

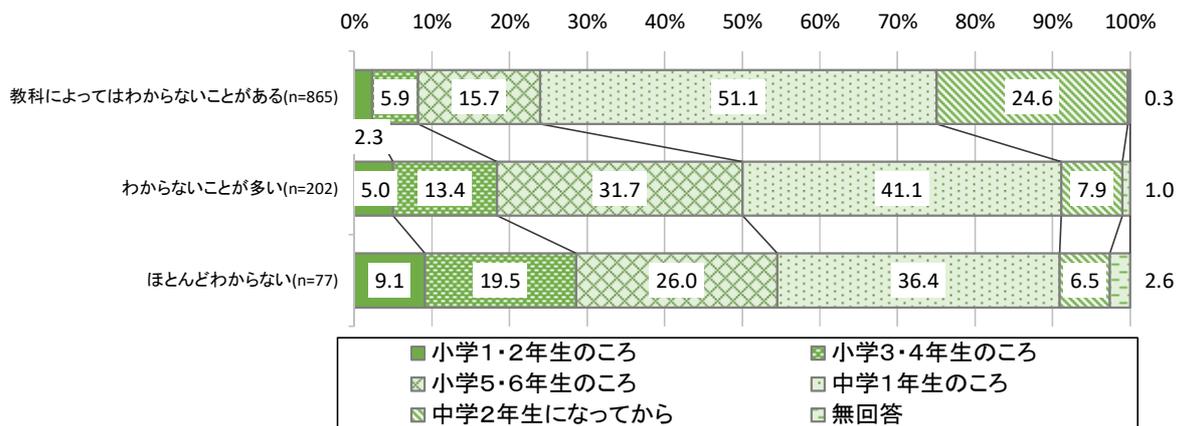


図 2-2-1-18 授業の理解状況別、授業がわからなくなった時期

2.2.2 進学希望

(1) 進学したいと思う教育段階

中学生票問7. あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。(SA)

将来どの段階まで進学したいかについては、「大学またはそれ以上」が44.6%、「まだわからない」が21.2%、「高校まで」が17.5%、「短大・高専・専門学校まで」が15.0%、「中学まで」が0.3%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「大学またはそれ以上」の回答割合は、「中央値以上」の世帯では55.7%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では35.4%、「中央値の2分の1未満」の世帯では25.0%となっている。

世帯の状況別にみると、「大学またはそれ以上」の回答割合は、「ふたり親世帯」では46.8%、「ひとり親世帯」全体では29.7%、「母子世帯」のみでは28.5%となっている。

また、等価世帯収入水準が「中央値の2分の1未満」の場合に、クラスの中での成績別にみると、収入の水準が低い場合であっても、成績が「上のほう」「やや上のほう」の場合には、進学したいと思う教育段階について「大学またはそれ以上」の割合が比較的高くなっている。

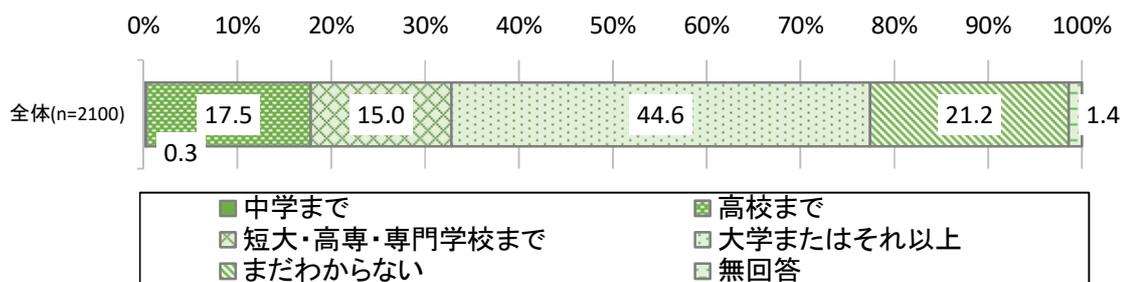


図 2-2-2-1 進学したいと思う教育段階

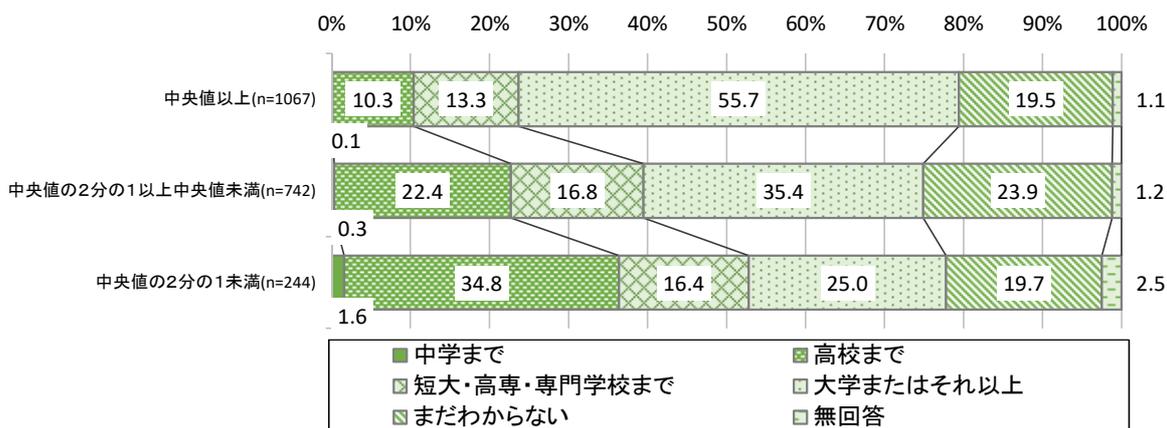


図 2-2-2-2 等価世帯収入の水準別、進学したいと思う教育段階

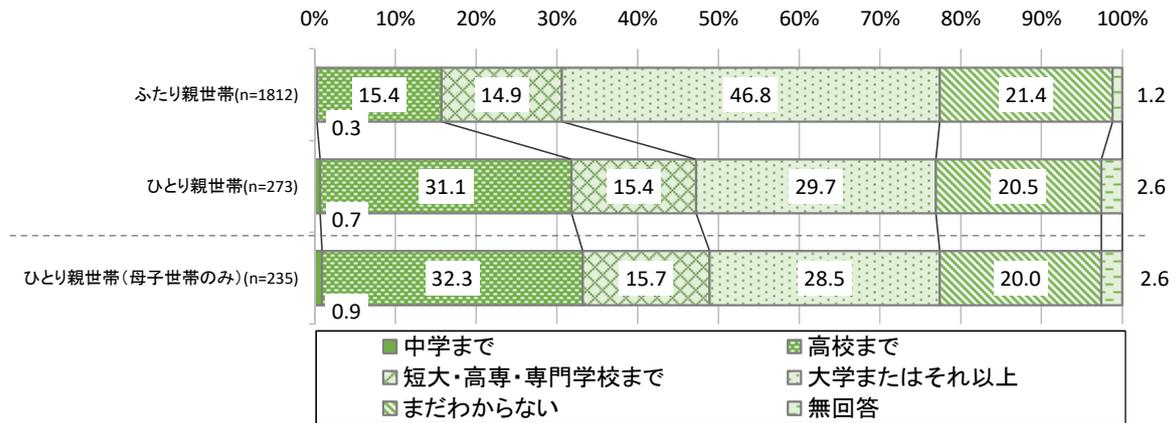


図 2-2-2-3 世帯の状況別、進学したいと思う教育段階

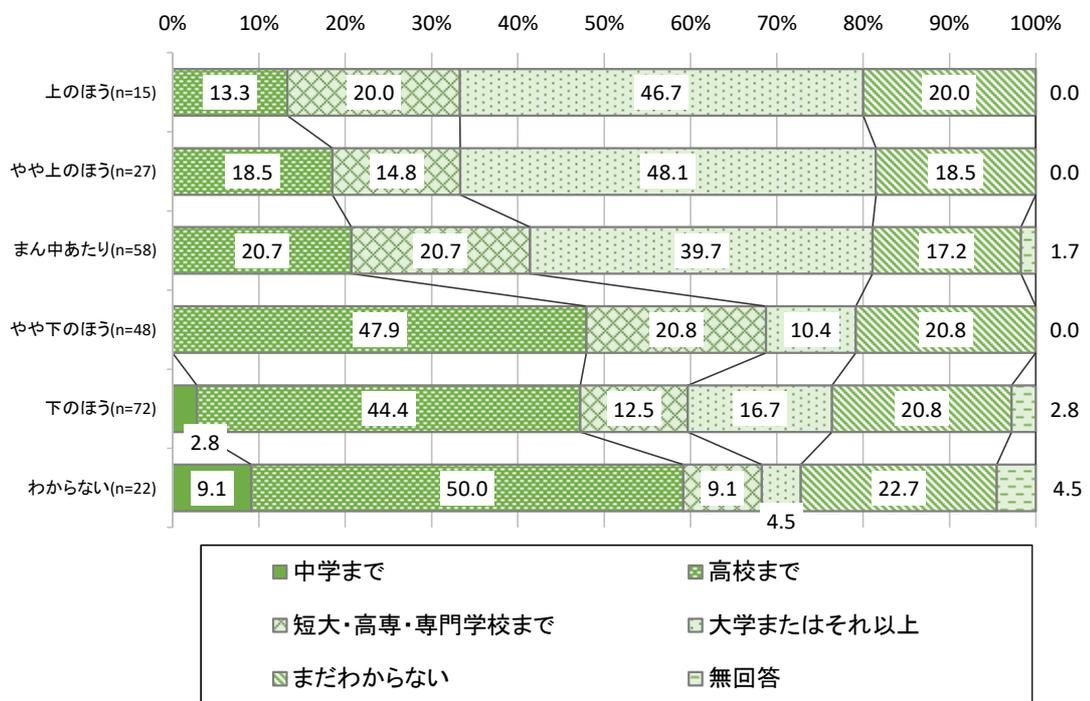


図 2-2-2-4 等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の場合のクラスの中での成績別、進学したいと思う教育段階

(2) 保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況

保護者が考える子どもの進学段階に関する希望・展望の回答（図 2-1-6-1 参照）と、子ども自身が進学したいと思う教育段階（図 2-2-2-1 参照）の一致・不一致の状況について、「教育段階一致」、「保護者の方が高い段階」、「子どもの方が高い段階」、「保護者・子どもともに未定」、「保護者未定」、「子ども未定」の 6 分類で集計した。その結果、「教育段階一致」の割合は 57.4%となっている。等価世帯収入の水準別にみると、「教育段階一致」の割合は、「中央値以上」の世帯では 63.3%、「中央値の 2分の1以上中央値未満」の世帯では 53.3%、「中央値の 2分の1未満」の世帯では 47.1%となっている。

世帯の状況別にみると、「教育段階一致」の割合は、「ふたり親世帯」では 58.5%、「ひとり親世帯」全体では 50.6%、「母子世帯」のみでは 50.4%となっている。

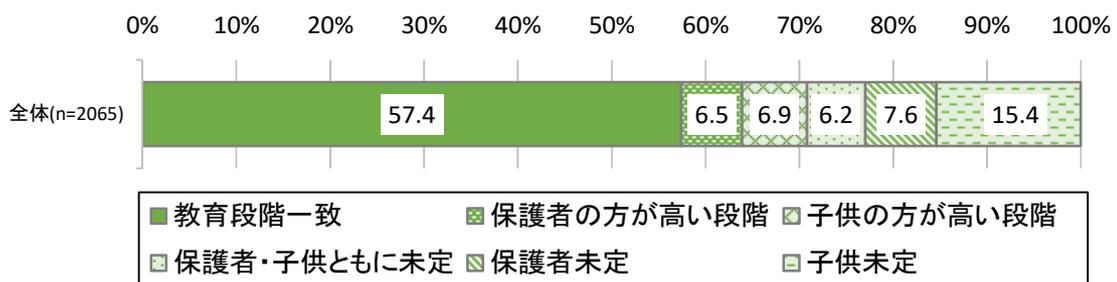


図 2-2-2-5 保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況

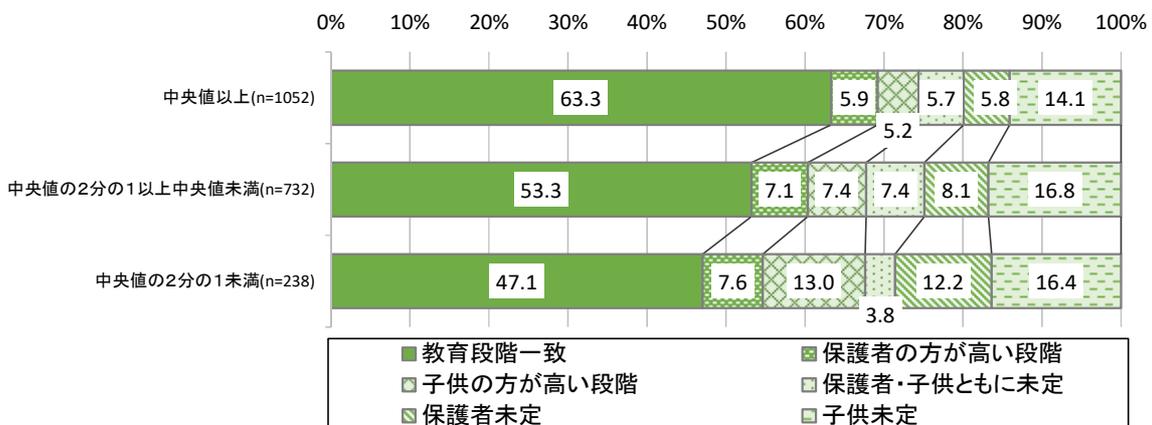


図 2-2-2-6 等価世帯収入の水準別、保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況

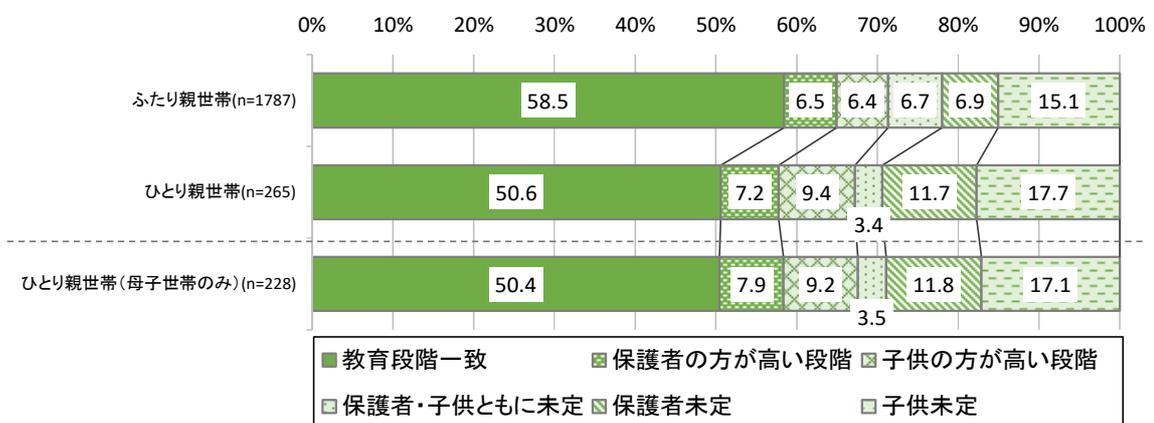


図 2-2-2-7 世帯の状況別、保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況

(3) 進学希望の教育段階についてそう考える理由

【問7で1～4と答えた方に】

中学生票問8. その理由を教えてください。(MA)

進学希望の理由について、全体としては、「希望する学校や職業があるから」が53.0%、「親がそう言っているから」が17.4%、「自分の成績から考えて」が14.5%となっている。

進学したいと思う教育段階別にみると、進学希望の教育段階が「高校まで」の場合には、「自分の成績から考えて」が27.7%、「兄・姉がそうしているから」が7.3%、「まわりの先輩や友達がそうしているから」が5.7%、「家にお金がないと思うから」が8.7%、「早く働く必要があるから」が6.5%、「とくに理由はない」が26.9%で、他の場合と比べて高くなっている。他方で、「希望する学校や職業があるから」の回答割合は低くなっている。

「高校まで」と回答した場合の理由を等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「希望する学校や職業があるから」が23.5%、「自分の成績から考えて」が22.4%で、他の世帯と比べて低く、他方で、「親がそう言っているから」が29.4%、「家にお金がないと思うから」が20.0%と比較的高くなっている。「大学またはそれ以上」と回答した場合の理由を等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「希望する学校や職業があるから」の割合が68.9%と高くなっている。

世帯の状況別にみると、「高校まで」と回答した場合の理由について、「ひとり親世帯」では、「親がそう言っているから」は14.1%で「ふたり親世帯」と比べて低く、他方で、「家にお金がないと思うから」が12.9%と比較的高くなっている。「大学またはそれ以上」と回答した場合の理由を世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「希望する学校や職業があるから」の割合が65.4%となっている。

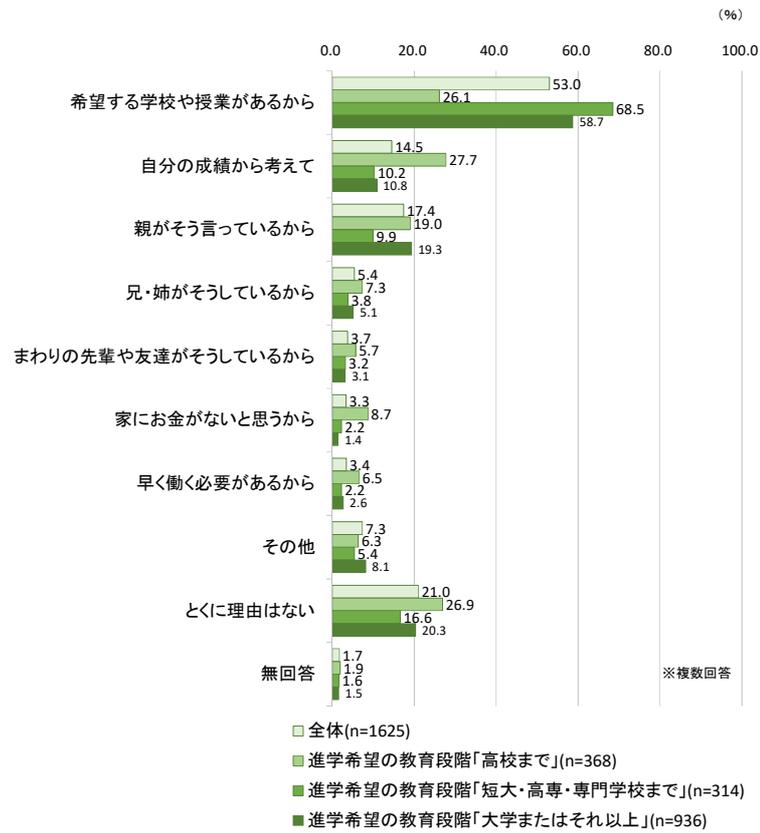


図 2-2-2-8 進学希望の教育段階についてそう考える理由

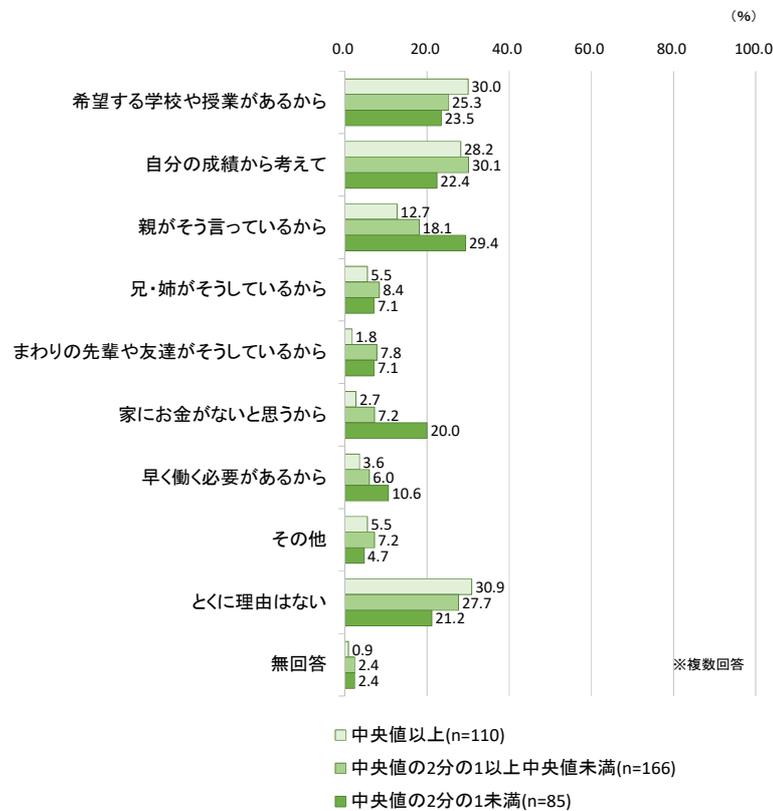


図 2-2-2-9 等価世帯収入の水準別、進学希望の教育段階について「高校まで」と考える理由

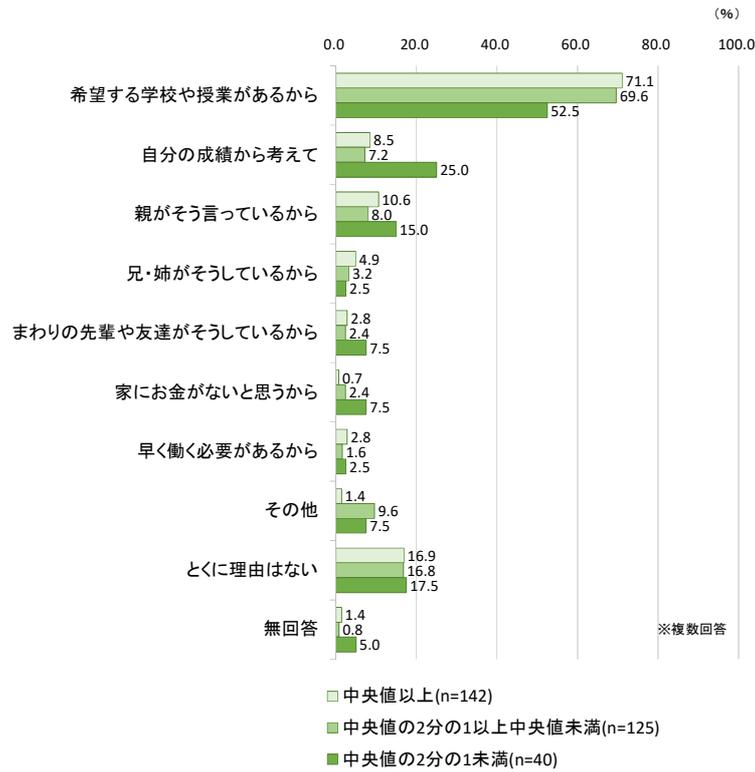


図 2-2-2-10 等価世帯収入の水準別、進学希望の教育段階について「短大・高専・専門学校まで」と考える理由

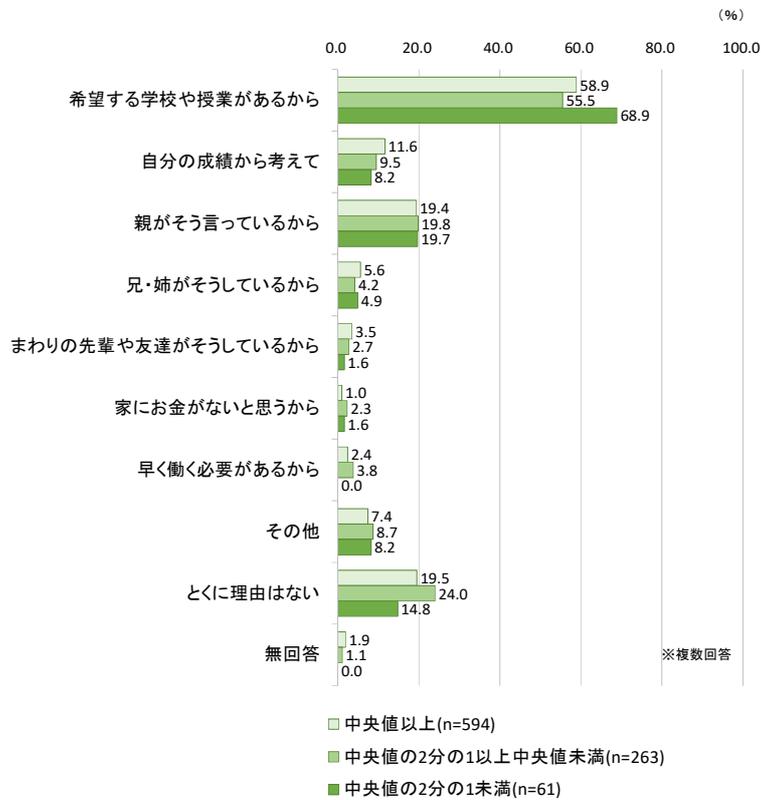


図 2-2-2-11 等価世帯収入の水準別、進学希望の教育段階について「大学またはそれ以上」と考える理由

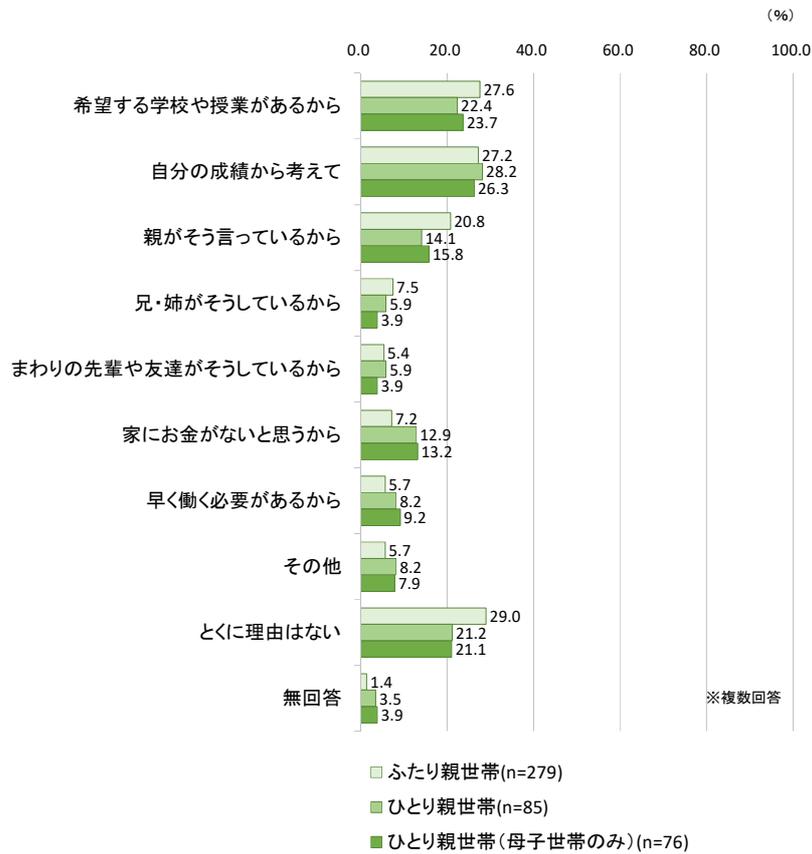


図 2-2-2-12 世帯の状況別、進学希望の教育段階について「高校まで」と考える理由

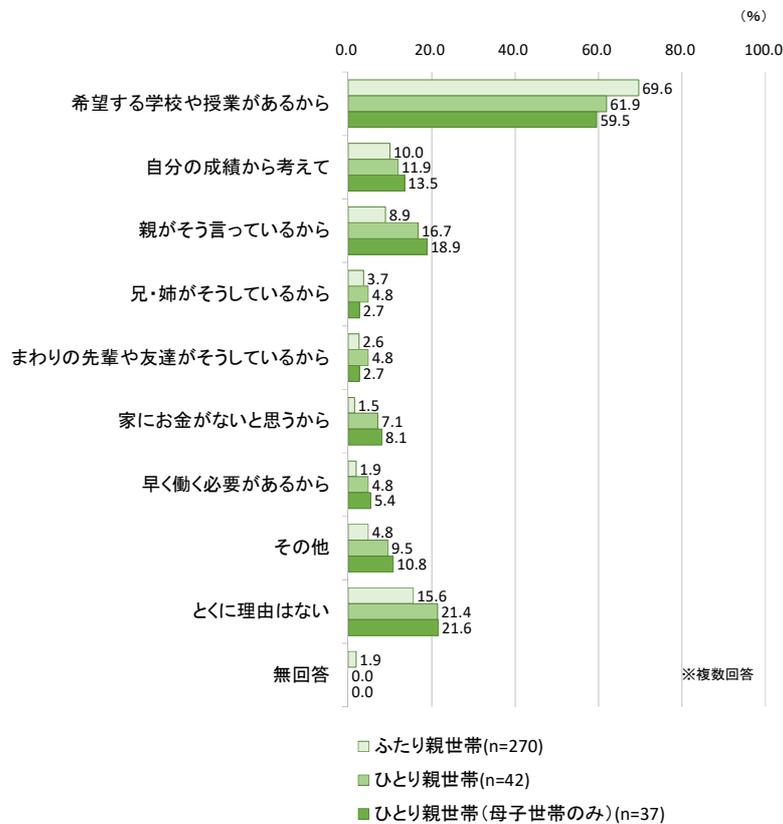


図 2-2-2-13 世帯の状況別、進学希望の教育段階について「短大・高専・専門学校まで」と考える理由

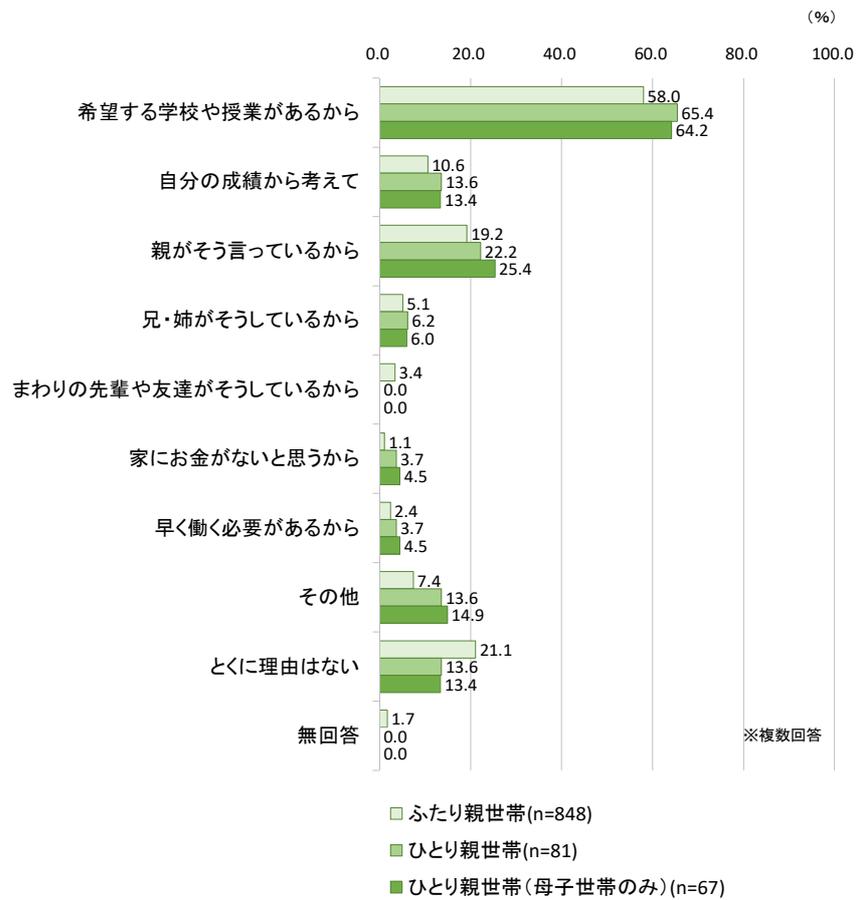


図 2-2-2-14 世帯の状況別、進学希望の教育段階について
「大学またはそれ以上」と考える理由

2.2.3 部活動等への参加状況

(1) 部活動等への参加状況

中学生票問9. あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。(SA)

地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動への参加状況については、「参加している」が77.5%、「参加していない」が21.7%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「参加していない」の割合は、「中央値以上」の世帯では16.6%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では22.6%、「中央値の2分の1未満」の世帯では40.2%となっている。

世帯の状況別にみると、「参加していない」の割合は、「ふたり親世帯」では19.4%、「ひとり親世帯」全体では36.3%、「母子世帯」のみでは37.0%となっている。

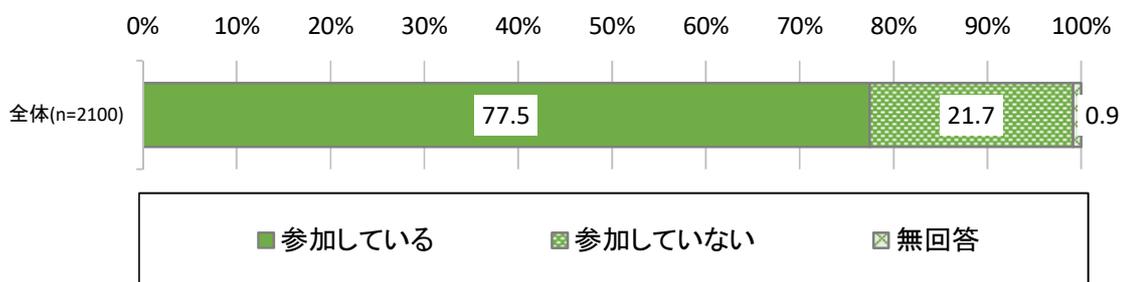


図 2-2-3-1 部活動等への参加状況

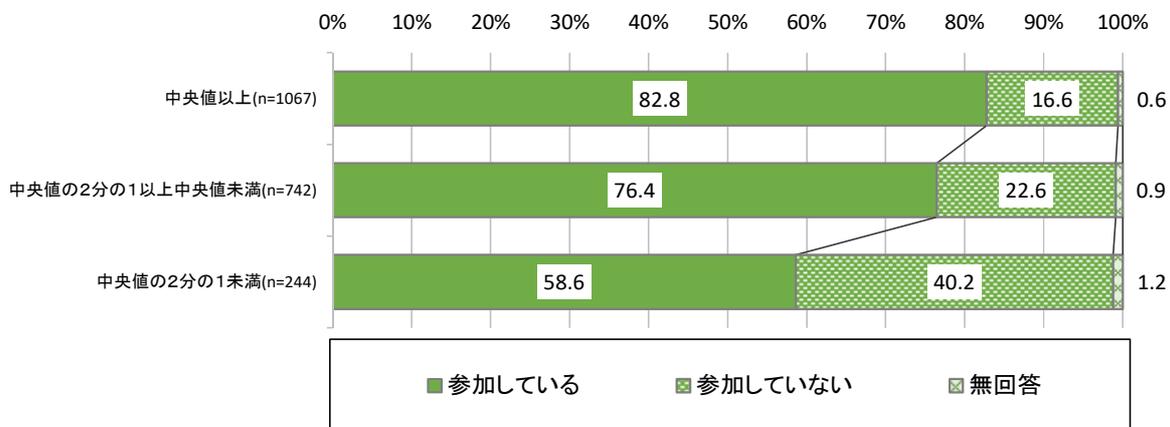


図 2-2-3-2 等価世帯収入の水準別、部活動等への参加状況

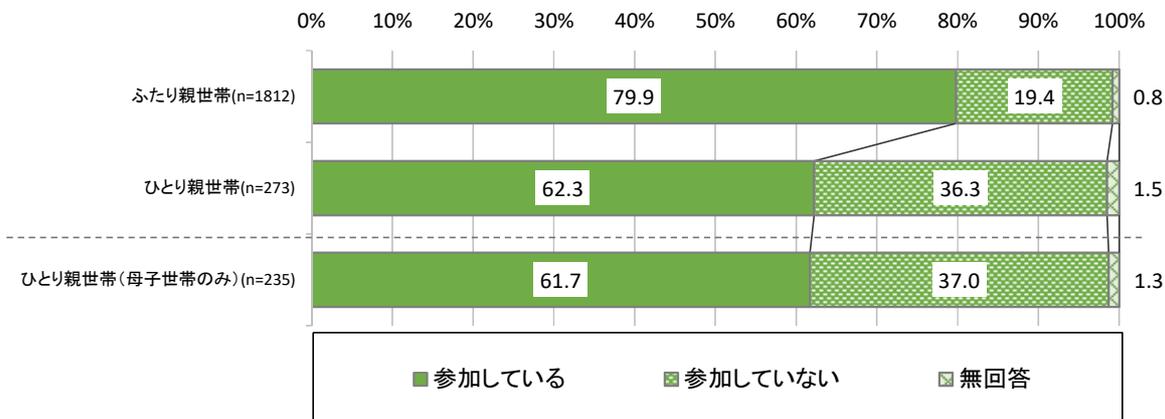


図 2-2-3-3 世帯の状況別、部活動等への参加状況

(2) 部活動等に参加していない理由

【問9で2と答えた方に】

中学生票問10. 参加していない理由は何ですか。(MA)

部活動等に参加していない理由については、「入りたいクラブ・部活動がないから」が53.2%、「塾や習い事が忙しいから」が12.7%、「一緒に入る友達がいないから」が10.1%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「一緒に入る友達がいないから」が15.3%、「費用がかかるから」が11.2%で、他の世帯と比べて高くなっている。他方で、「入りたいクラブ・部活動がないから」は40.8%、「塾や習い事が忙しいから」は7.1%で、他の世帯と比べて低くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「費用がかかるから」が12.1%で「ふたり親世帯」と比べて高く、「塾や習い事が忙しいから」は8.1%で低くなっている。

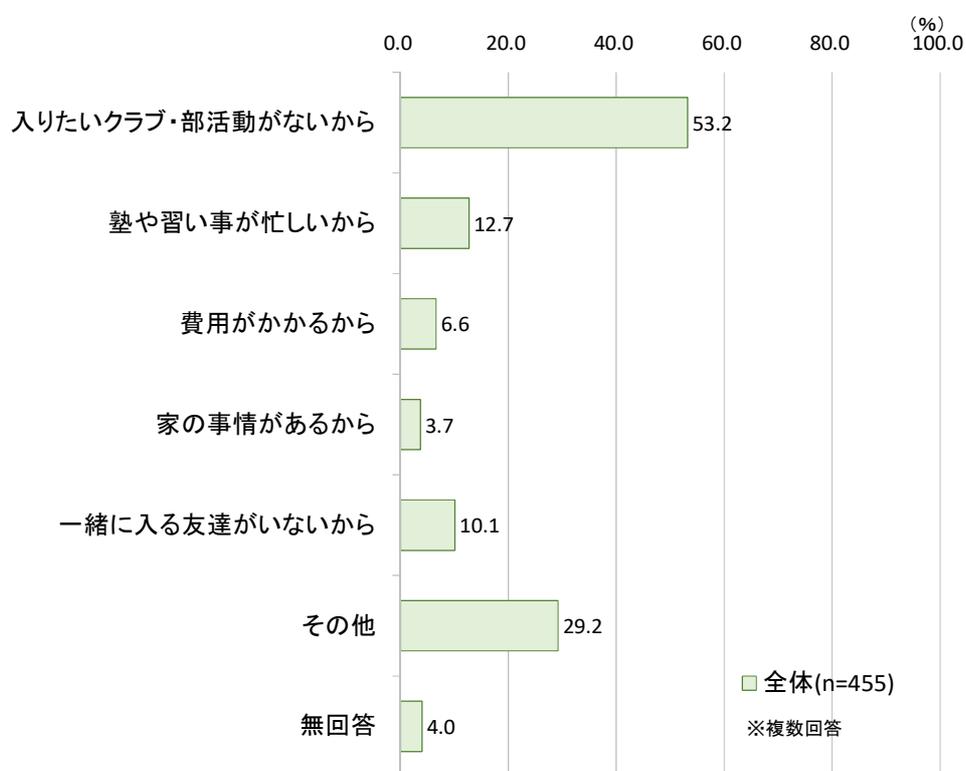


図 2-2-3-4 部活動等に参加していない理由

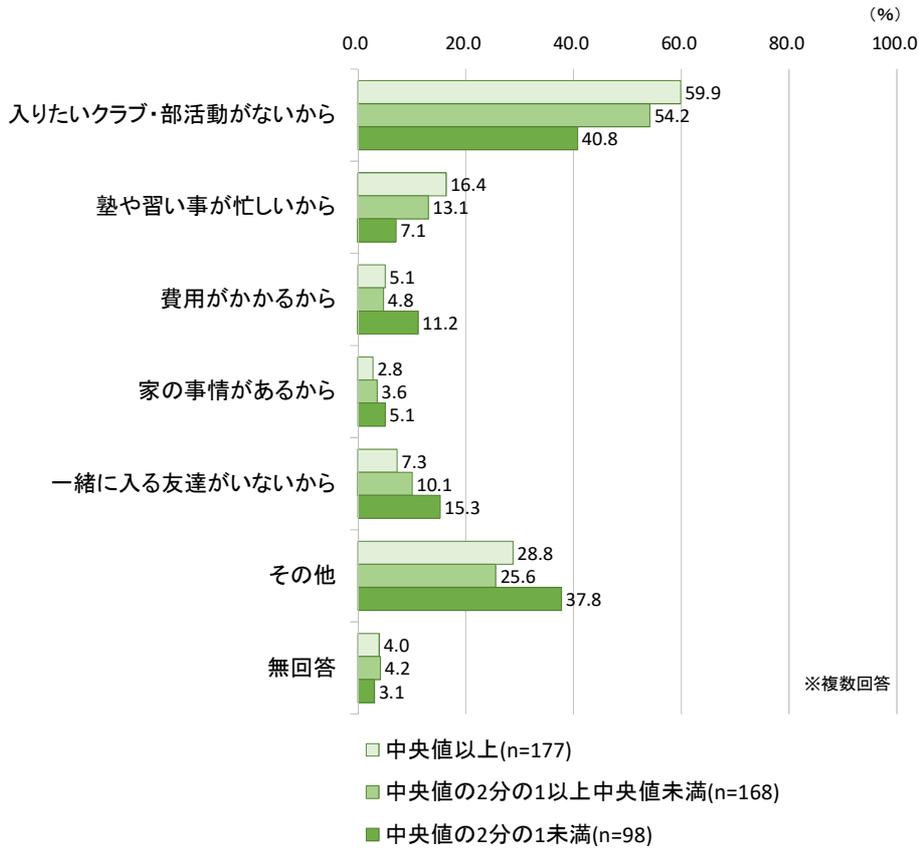


図 2-2-3-5 等価世帯収入の水準別、部活動等に参加していない理由

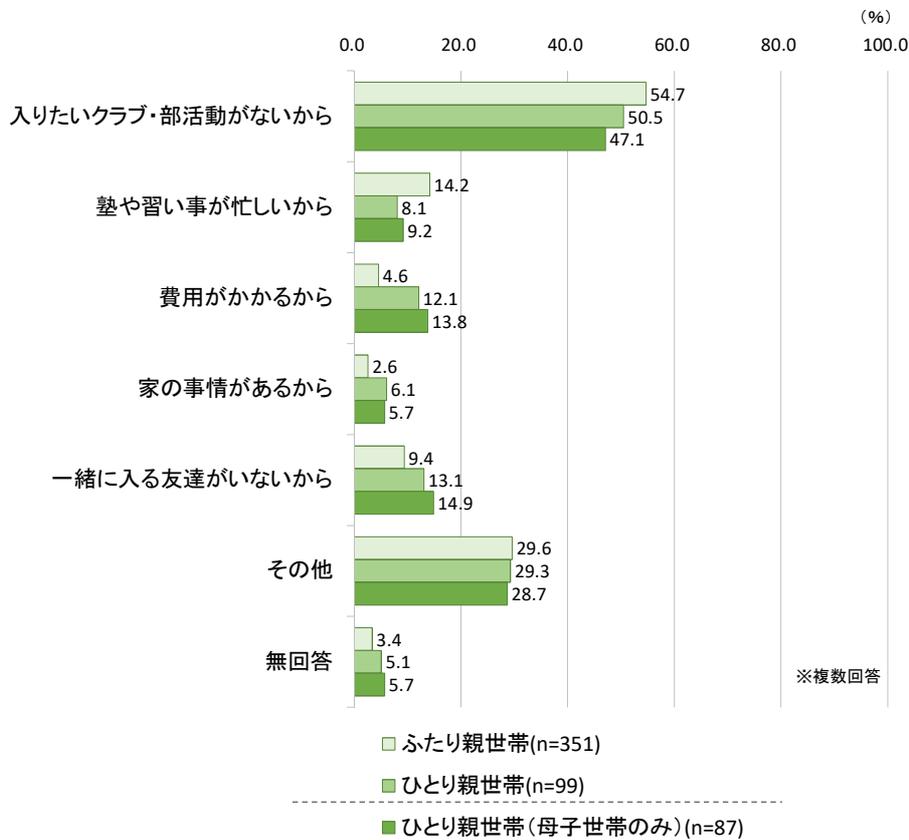


図 2-2-3-6 世帯の状況別、部活動等に参加していない理由

2.2.4 日常的な生活の状況

(1) 食事の状況

中学生票問11. あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。(SA)

食事の状況について、「朝食」については、「毎日食べる（週7日）」が81.6%、「週5～6日」が9.2%、「週3～4日」が2.6%、「週1～2日、ほとんど食べない」が5.7%となっている。

「夕食」については、「毎日食べる（週7日）」が96.7%、「週5～6日」が2.0%、「週3～4日」と「週1～2日、ほとんど食べない」が0.2%となっている。

「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」については、「毎日食べる（週7日）」が87.1%、「週5～6日」が7.6%、「週3～4日」が2.8%、「週1～2日、ほとんど食べない」が1.3%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「毎日食べる（週7日）」の割合が、「朝食」について65.6%、「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について79.5%と、他の世帯と比べて低くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「毎日食べる（週7日）」の割合が、「朝食」について68.1%、「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について76.9%と、「ふたり親世帯」と比べて低くなっている。

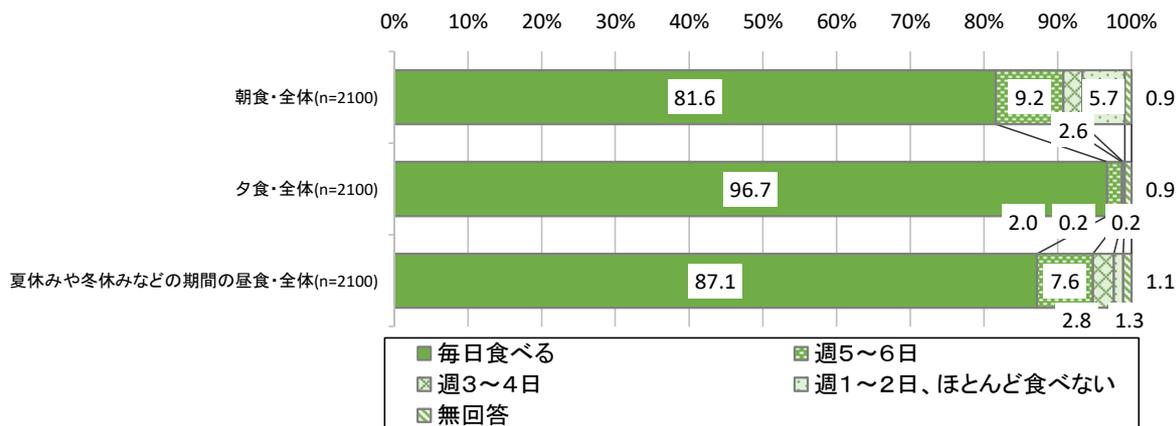


図 2-2-4-1 食事の状況

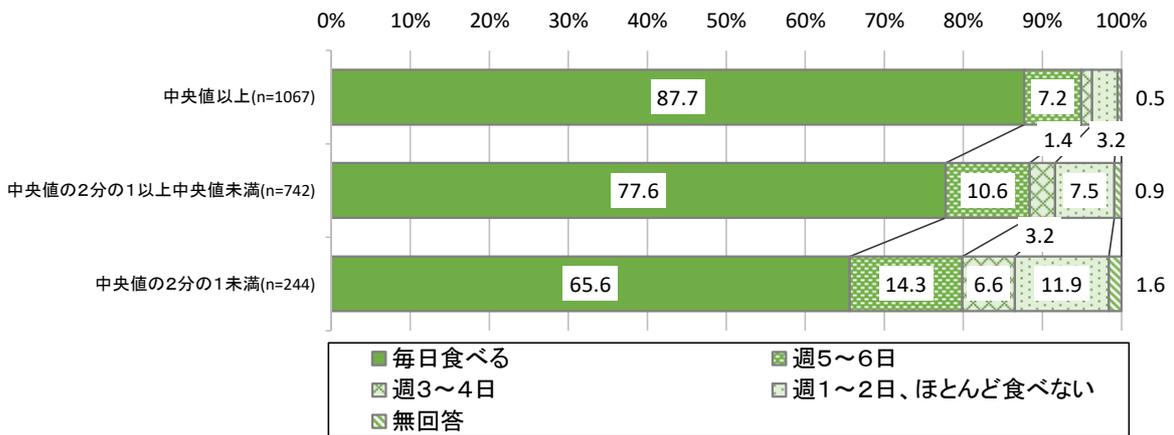


図 2-2-4-2 等価世帯収入の水準別、食事の状況（朝食）

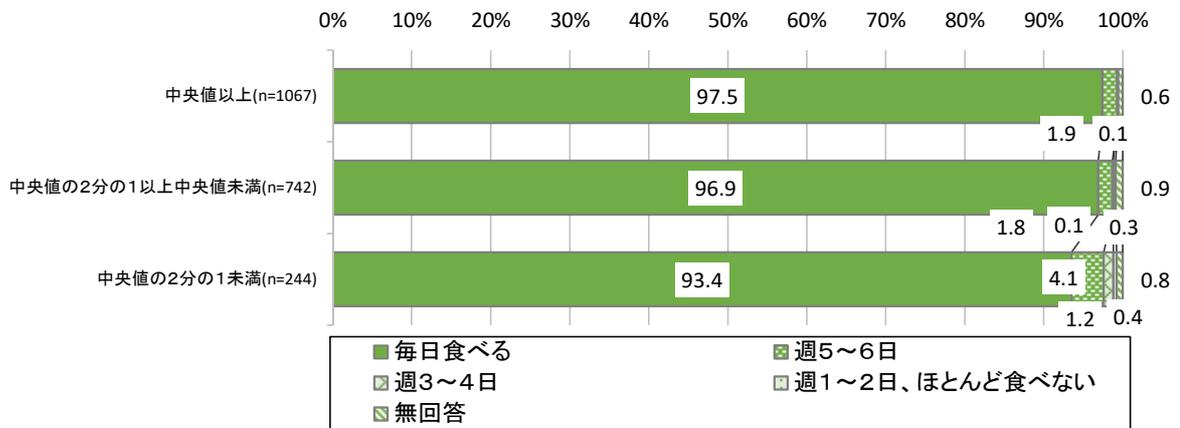


図 2-2-4-3 等価世帯収入の水準別、食事の状況（夕食）

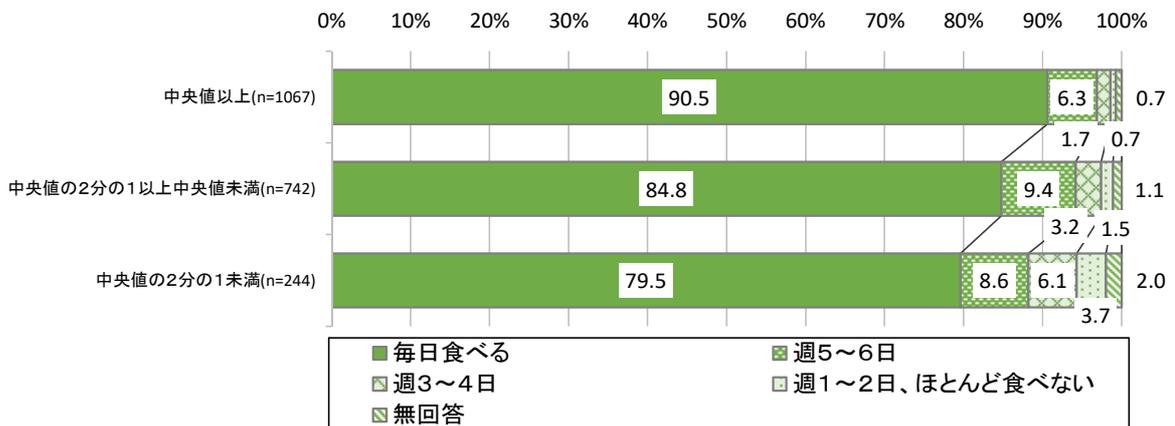


図 2-2-4-4 等価世帯収入の水準別、食事の状況（夏休みや冬休みなどの期間の昼食）

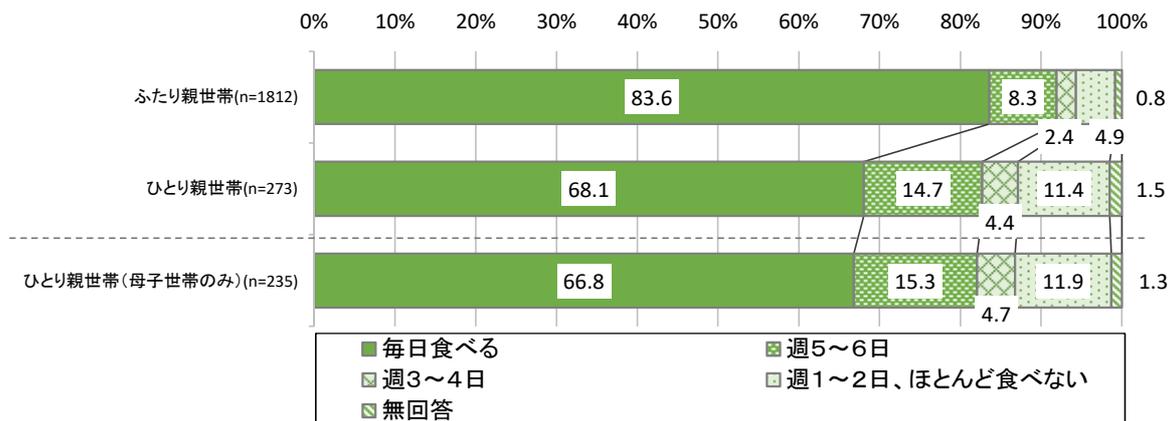


図 2-2-4-5 世帯の状況別、食事の状況（朝食）

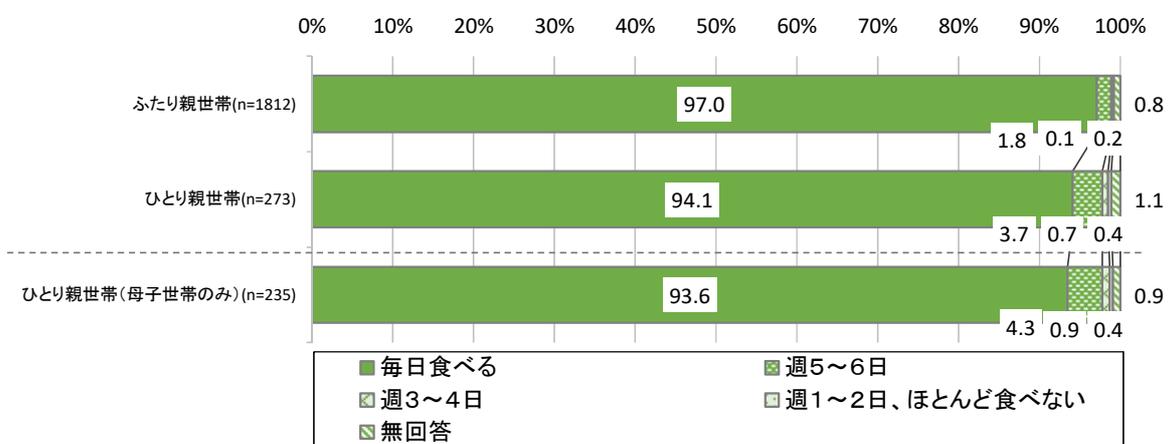


図 2-2-4-6 世帯の状況別、食事の状況（夕食）

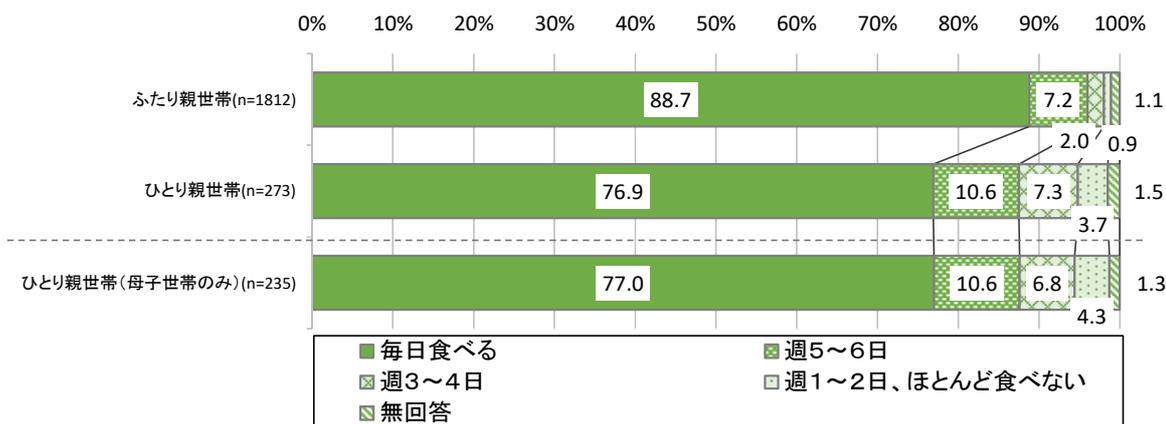


図 2-2-4-7 世帯の状況別、食事の状況（夏休みや冬休みなどの期間の昼食）

(2) 就寝時間

中学生票問12. あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。(SA)

就寝時間に関して、ほぼ同じ時間に寝ているかについては、「そうである」が34.5%、「どちらかといえばそうである」が47.9%、「どちらかといえばそうではない」が11.0%、「そうではない」が6.0%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「そうである」「どちらかといえばそうである」を合わせた割合が75.0%と他の世帯と比べて低くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「そうである」「どちらかといえばそうである」を合わせた割合が75.5%と「ふたり親世帯」と比べて低くなっている。

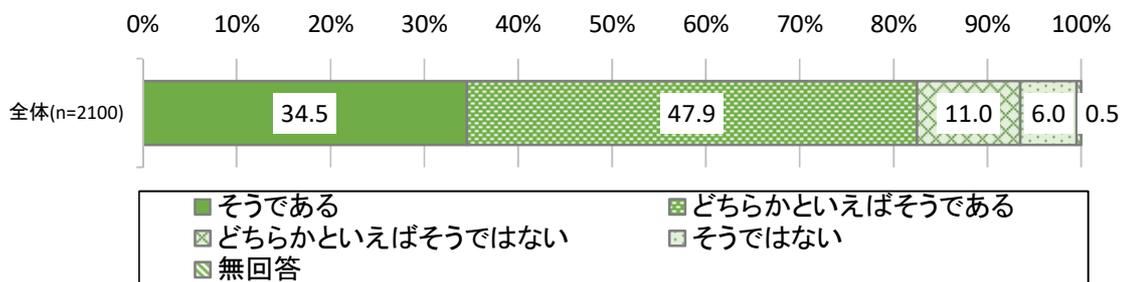


図 2-2-4-8 就寝時間

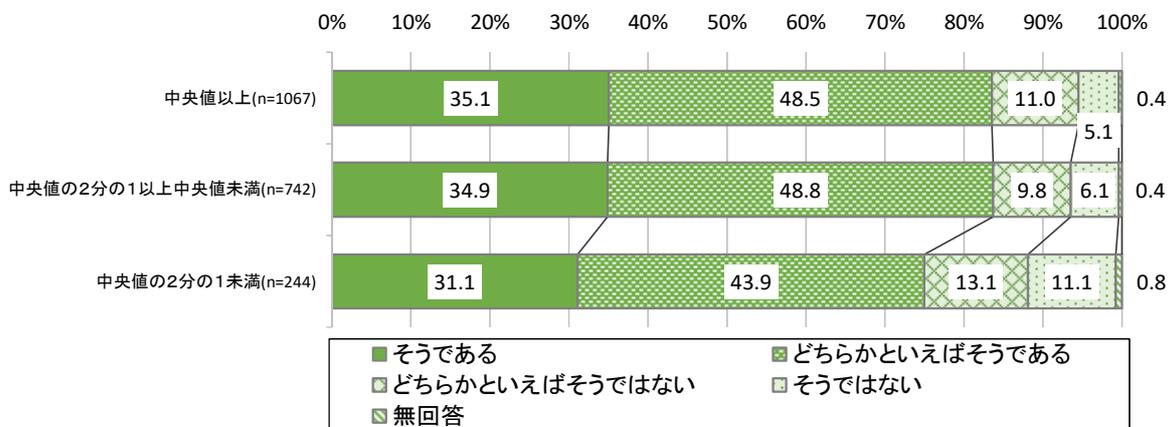


図 2-2-4-9 等価世帯収入の水準別、就寝時間

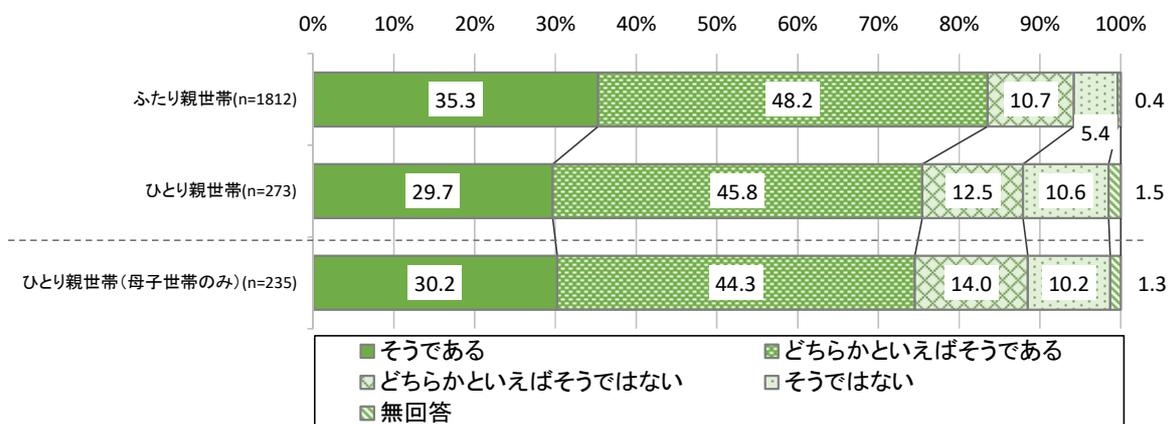


図 2-2-4-10 世帯の状況別、就寝時間

(3) 相談できると思う相手

中学生票問13. あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。(MA)

困っていることや悩みごとがあるとき相談できると思う人については、「親」が67.5%、「学校の友達」が66.1%、「学校の先生」が23.2%、「きょうだい、しまい」が21.4%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「学校の友達」が59.0%と他の世帯と比べて低くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「親」が59.0%、「学校の友達」が58.2%、「学校の先生」が19.8%で、それぞれ「ふたり親世帯」と比べて低くなっている。他方で、「祖父母」は14.7%、「だれにも相談できない、相談したくない」は13.2%と、それぞれ「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。

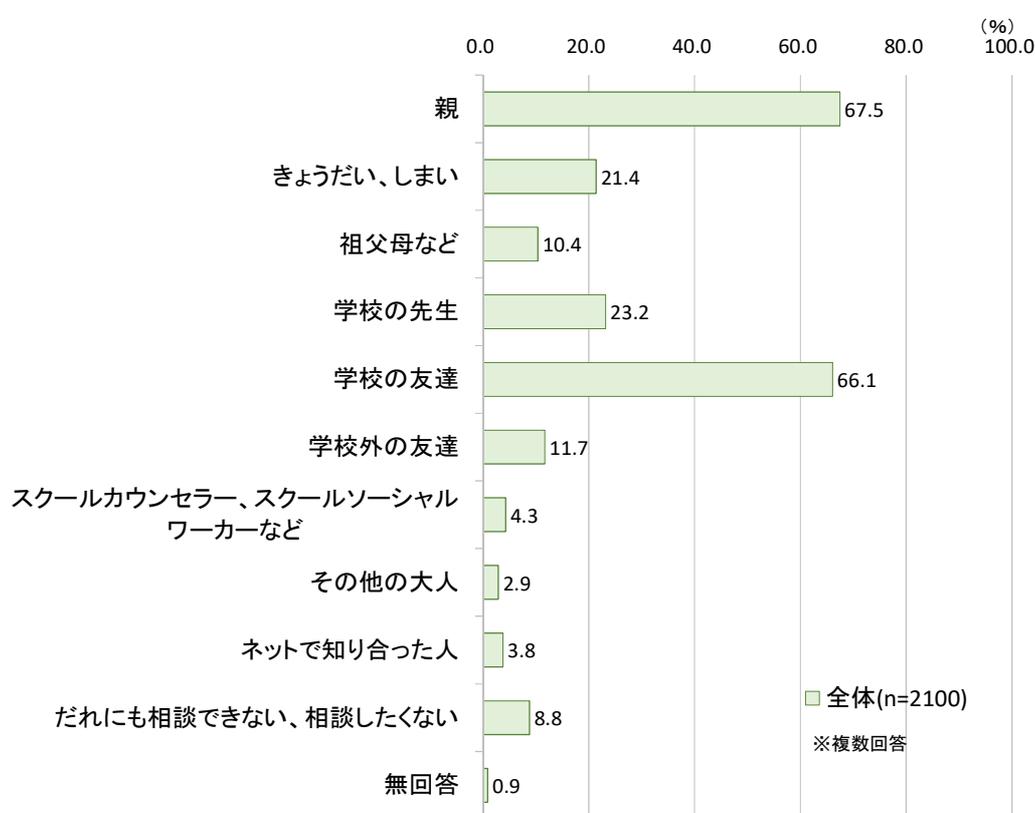


図 2-2-4-11 相談できると思う相手

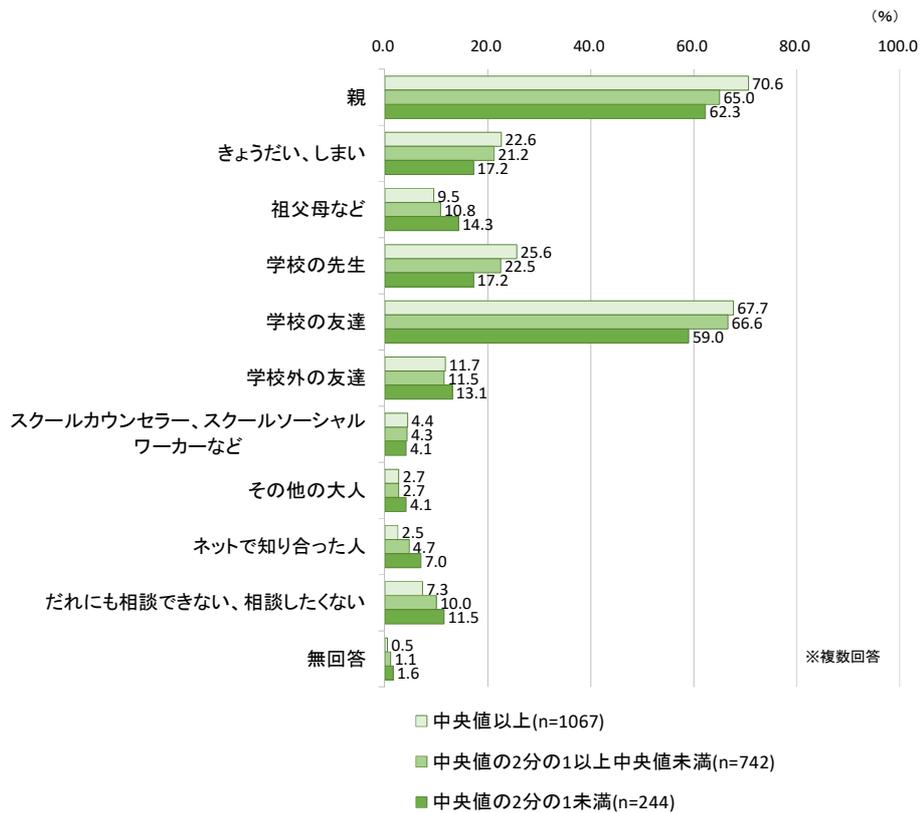


図 2-2-4-12 等価世帯収入の水準別、相談できると思う相手

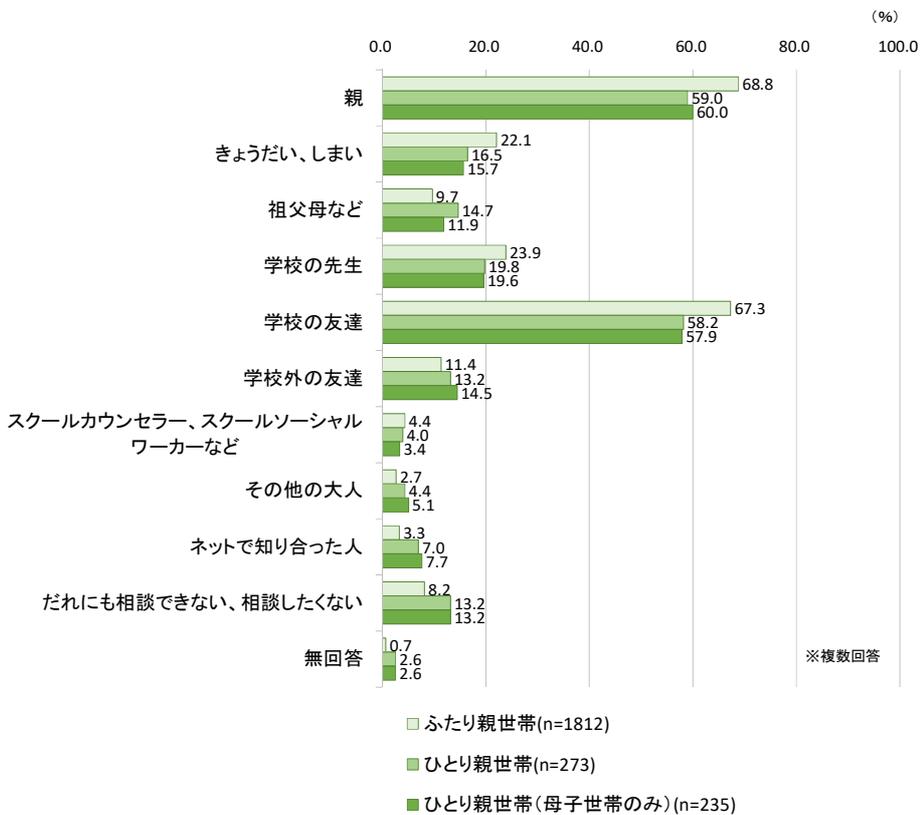


図 2-2-4-13 世帯の状況別、相談できると思う相手

(4) 生活満足度

中学生票問14. 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。(SA)

最近の生活の満足度については⁶、「0～2」に該当する割合が3.6%、「3～4」に該当する割合が10.3%、「5」に該当する割合が13.4%、「6～7」に該当する割合が25.4%、「8～10」に該当する割合が46.6%となっている。満足度が高い方の回答（6～10）割合は72.0%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「6～10」に該当する割合は61.9%で、他の世帯と比べて生活満足度が低くなっている。

世帯の状況別についてみると、「ひとり親世帯」では、「6～10」に該当する割合は57.1%で、「ふたり親世帯」と比べて生活満足度が低くなっている。

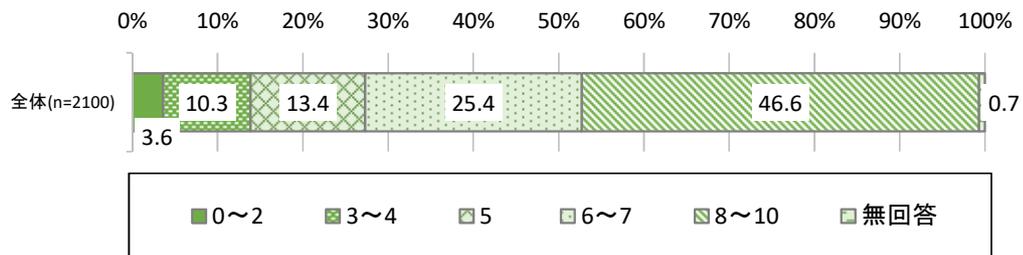


図 2-2-4-14 生活満足度

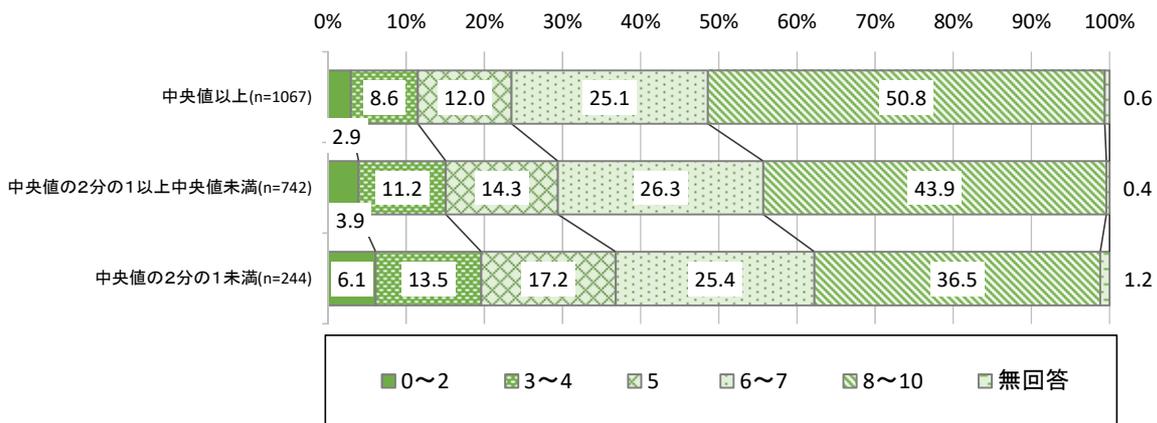


図 2-2-4-15 等価世帯収入の水準別、生活満足度

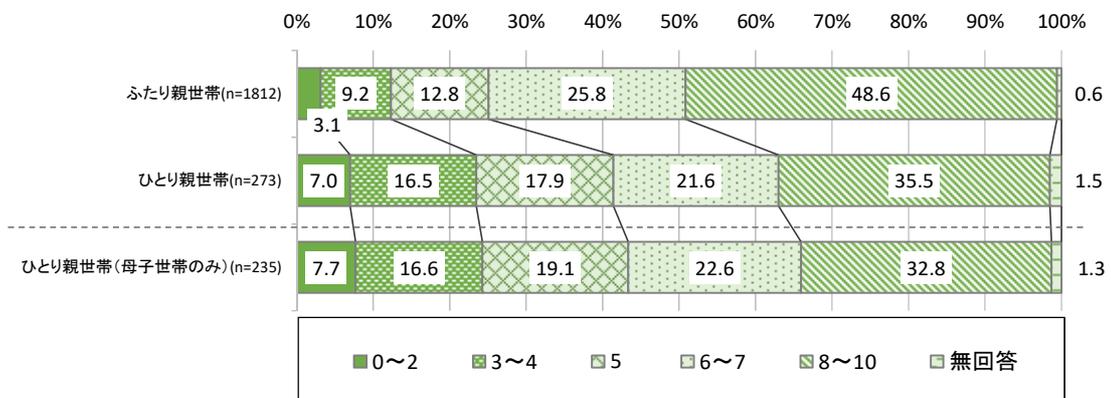


図 2-2-4-16 世帯の状況別、生活満足度

⁶ 「0：まったく満足していない」から「10：十分に満足している」の11段階で回答を得たものを、5つの分類に再分類して集計した。

2.2.5 子どもの心理的な状態

「子どもの心理的な状態」に関して、調査では「強さと困難さアンケート (SDQ : Strength and Difficulties Questionnaire)」の調査項目のうち、「情緒 (不安や抑うつなど)」の問題、「仲間関係」の問題、「向社会性」を把握するための項目を設定した

(1) 情緒の問題

中学生票問15. 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。(SA)

- b. 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。
- e. 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。
- h. 私は、落ち込んでずんできていたり、涙ぐんだりすることがよくある。
- j. 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。
- o. 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする

「情緒の問題」に関して、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した (0~10点、得点が高いほど、問題性が高いと考えられる)。全体の平均値は3.24となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「情緒の問題」の平均値は、「中央値以上」の世帯では3.11、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では3.29、「中央値の2分の1未満」の世帯では3.66となっている。

世帯の状況別にみると、「ふたり親世帯」では3.19、「ひとり親世帯」全体では3.56、「母子世帯」のみでは3.63となっている。

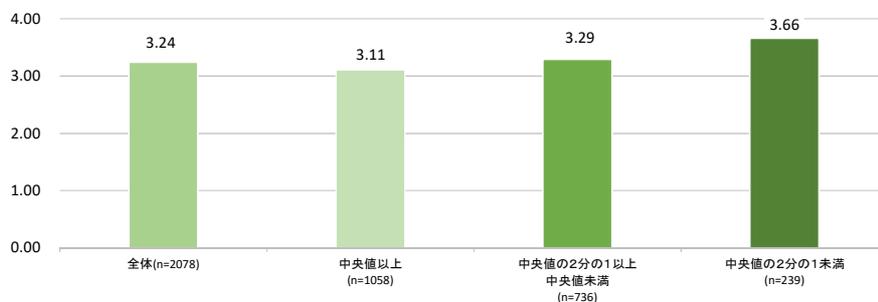


図 2-2-5-1 等価世帯収入の水準別、「情緒の問題」に関するスコアの平均値

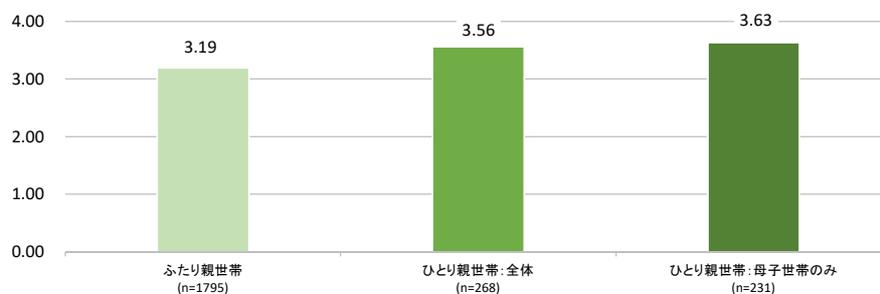


図 2-2-5-2 世帯の状況別、「情緒の問題」に関するスコアの平均値

(2) 仲間関係の問題

中学生票問15. 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。(SA)

d. 私は、たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。

g. 私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。

i. 私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたいは好かれている。

l. 私は、他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりする。

n. 私は、他の子どもたちより、大人という方がうまくいく。

「仲間関係の問題」に関して、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した（0～10点、得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。全体の平均値は3.91となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「仲間関係の問題」の平均値は、「中央値以上」では3.91、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では3.88、「中央値の2分の1未満」の世帯では4.03となっている。

世帯の状況別にみると、「ふたり親世帯」では3.92、「ひとり親世帯」全体では3.88、「母子世帯」のみでは3.86となっている。

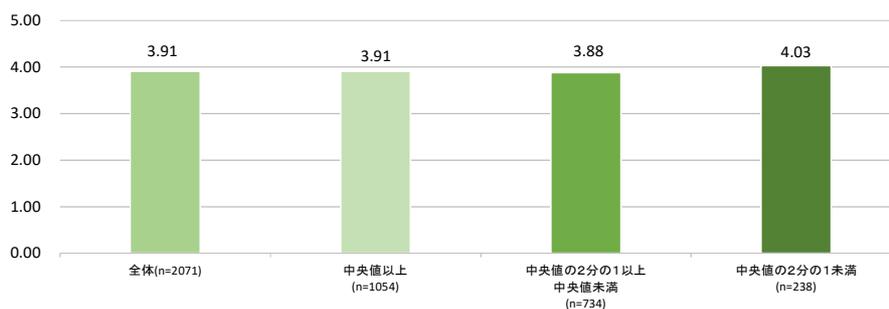


図 2-2-5-3 等価世帯収入の水準別、「仲間関係の問題」に関するスコアの平均値

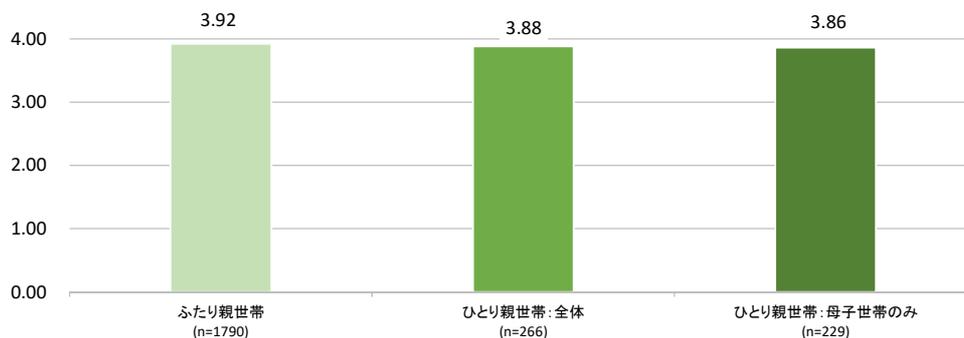


図 2-2-5-4 世帯の状況別、「仲間関係の問題」に関するスコアの平均値

(3) 向社会性

中学生票問15. 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。(SA)

- a. 私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える。
- c. 私は、他の子どもたちと、よく分け合う(食べ物・ゲーム・ペンなど)。
- f. 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。
- k. 私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。
- m. 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする(親・先生・子どもたちなど)。

「向社会性」に関して、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した(0~10点、得点が高いほど、社会性が高いと考えられる)。全体の平均値は5.82となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「向社会性」の平均値は、「中央値以上」の世帯では5.81、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では5.83、「中央値の2分の1未満」の世帯では5.80となっている。

世帯の状況別にみると、「ふたり親世帯」では5.84、「ひとり親世帯」全体では5.68、「母子世帯」のみでは5.63となっている。

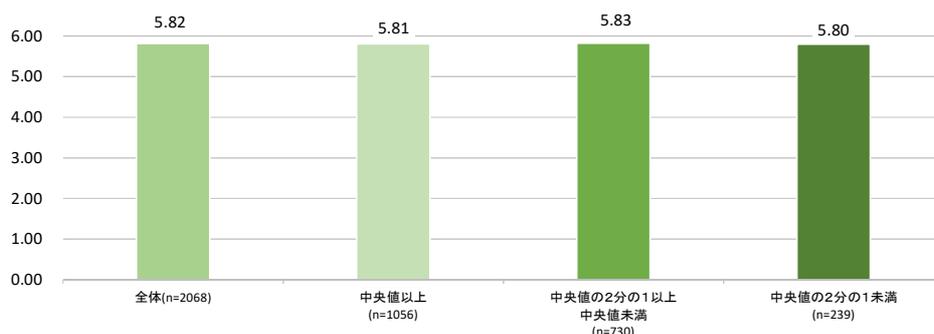


図 2-2-5-5 等価世帯収入の水準別、「向社会性」に関するスコアの平均値

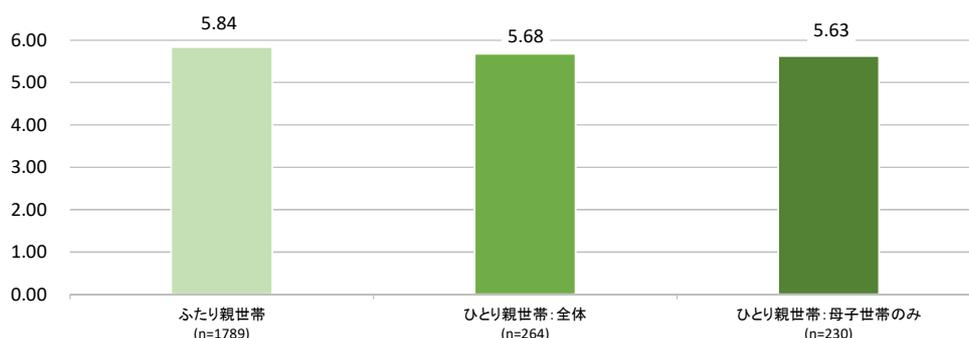


図 2-2-5-6 世帯の状況別、「向社会性」に関するスコアの平均値

2.2.6 逆境体験

(1) 保護者の状況と逆境体験

- 中学生票問17. あなたは今までに、以下の a～h のようなことがありましたか。あてはまる個数を教えてください。(SA)
- a.一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
 - b.一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある
 - c.家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
 - d.必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じることがある
 - e.両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある
 - f.一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある
 - g.一緒に住んでいる人にお酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる
 - h.一緒に住んでいる人、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる

「逆境体験」について、8つの項目を基に状況把握を行った。8つの項目のうち、「ひとつもあてはまらない(0個)」は82.2%、「1～2個あてはまる」は16.7%、「3個以上あてはまる」は1.0%となっている⁷。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「ひとつもあてはまらない(0個)」が45.9%で他の世帯と比べて低くなっており、他方で、1個以上あてはまる割合が高くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「ひとつもあてはまらない(0個)」は23.8%、「1～2個あてはまる」は72.9%、「3個以上あてはまる」は3.3%となっている。

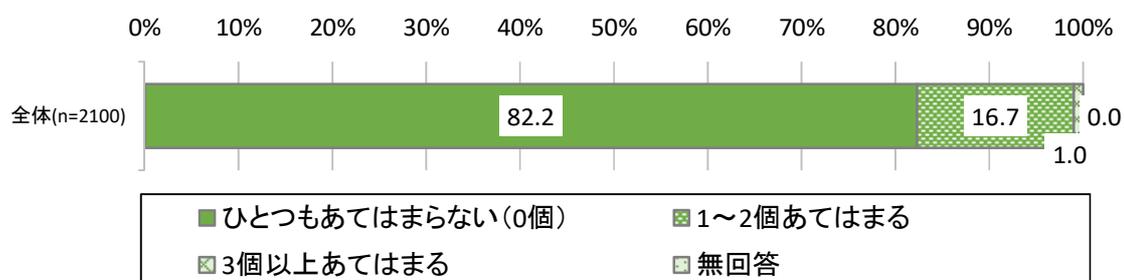


図 2-2-6-1 逆境体験

⁷調査票では、「ひとつもあてはまらない(0個)」、「1～2個あてはまる」、「3～4個あてはまる」、「5～7個あてはまる」、「すべてあてはまる(8個)」の選択肢で回答を得たが、該当する件数が少ないことも踏まえ、「3～4個あてはまる」、「5～7個あてはまる」、「すべてあてはまる(8個)」の回答を「3個以上あてはまる」として集計した。

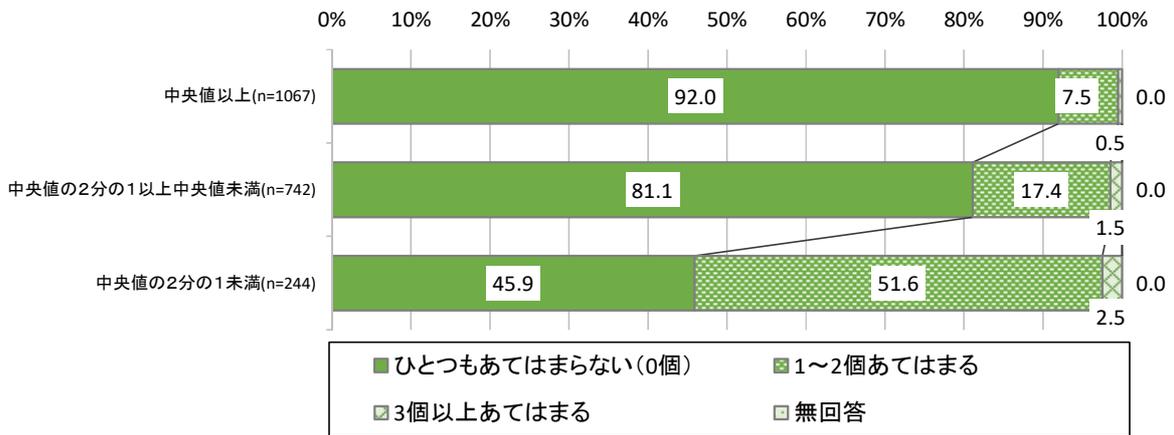


図 2-2-6-2 等価世帯収入の水準別、逆境体験

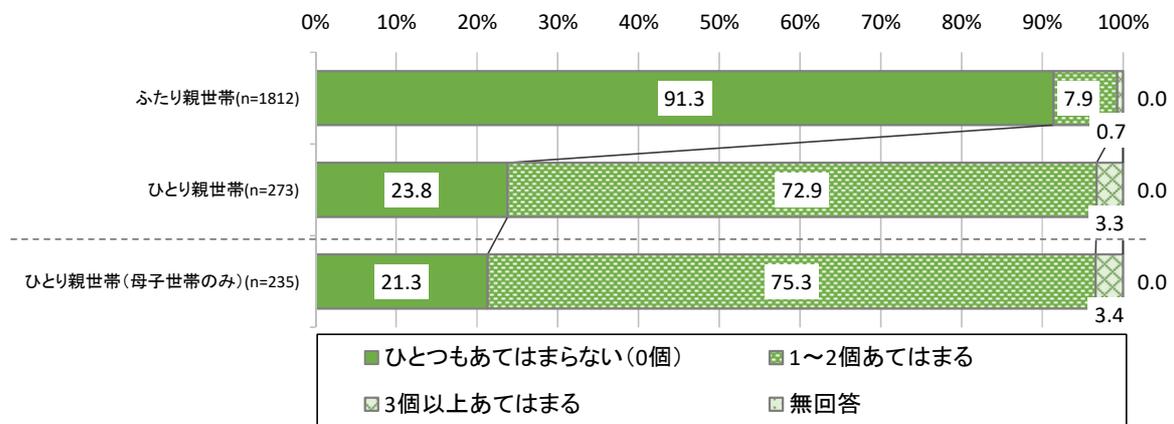


図 2-2-6-3 世帯の状況別、逆境体験

(2) 逆境体験と子どもの状況

逆境体験の経験の有無（「ひとつもあてはまらない（0個）」であるか、1個以上あてはまるか）により分類し、子どもの生活満足度の平均値を比較すると、逆境体験がない場合には生活満足度の平均値は7.3、逆境体験がある場合には5.9となっている。

また、等価世帯収入の水準で分類した上で、逆境体験の経験の有無別に子どもの生活満足度をみると、等価世帯収入の水準がいずれの場合であっても、逆境体験がある場合は生活満足度の平均値が低くなっている。

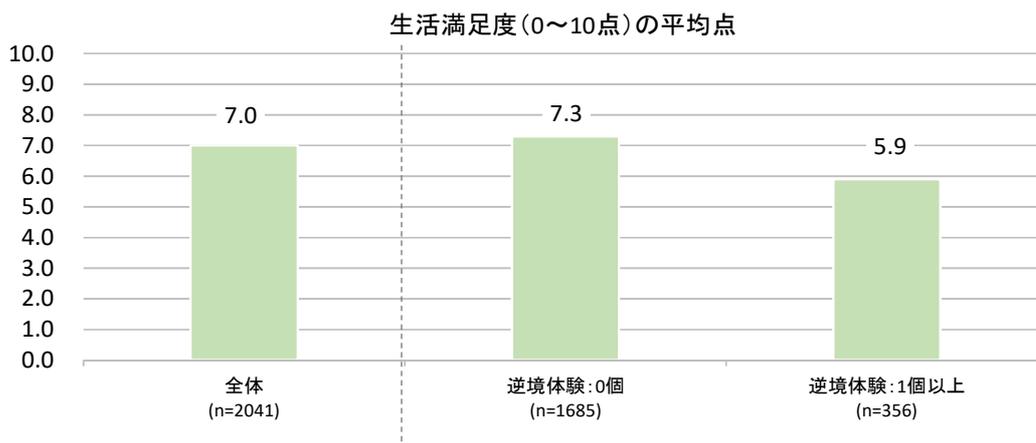


図 2-2-6-4 逆境体験の有無別、生活満足度

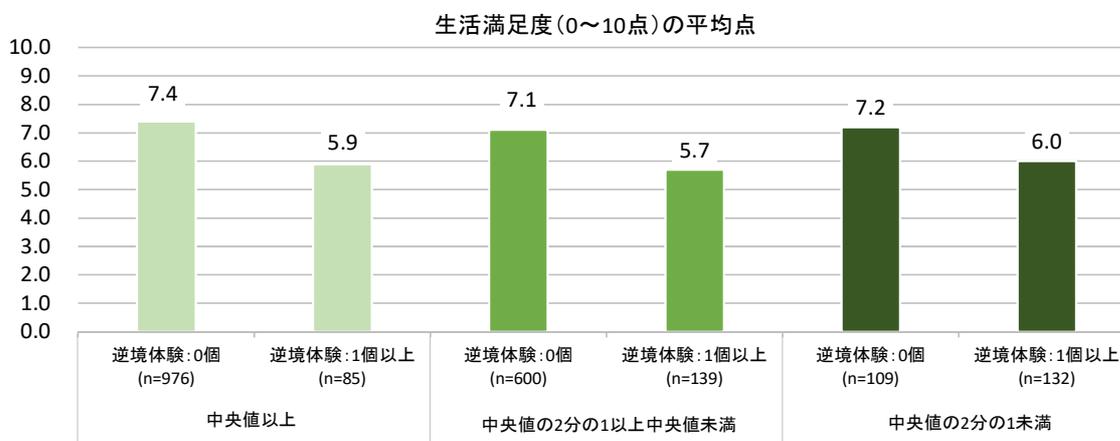


図 2-2-6-5 等価世帯の水準別、逆境体験の有無別、生活満足度